

公立大学法人

和歌山県立医科大学



教育研究開発センター

平成22年度

# 事業実績報告書

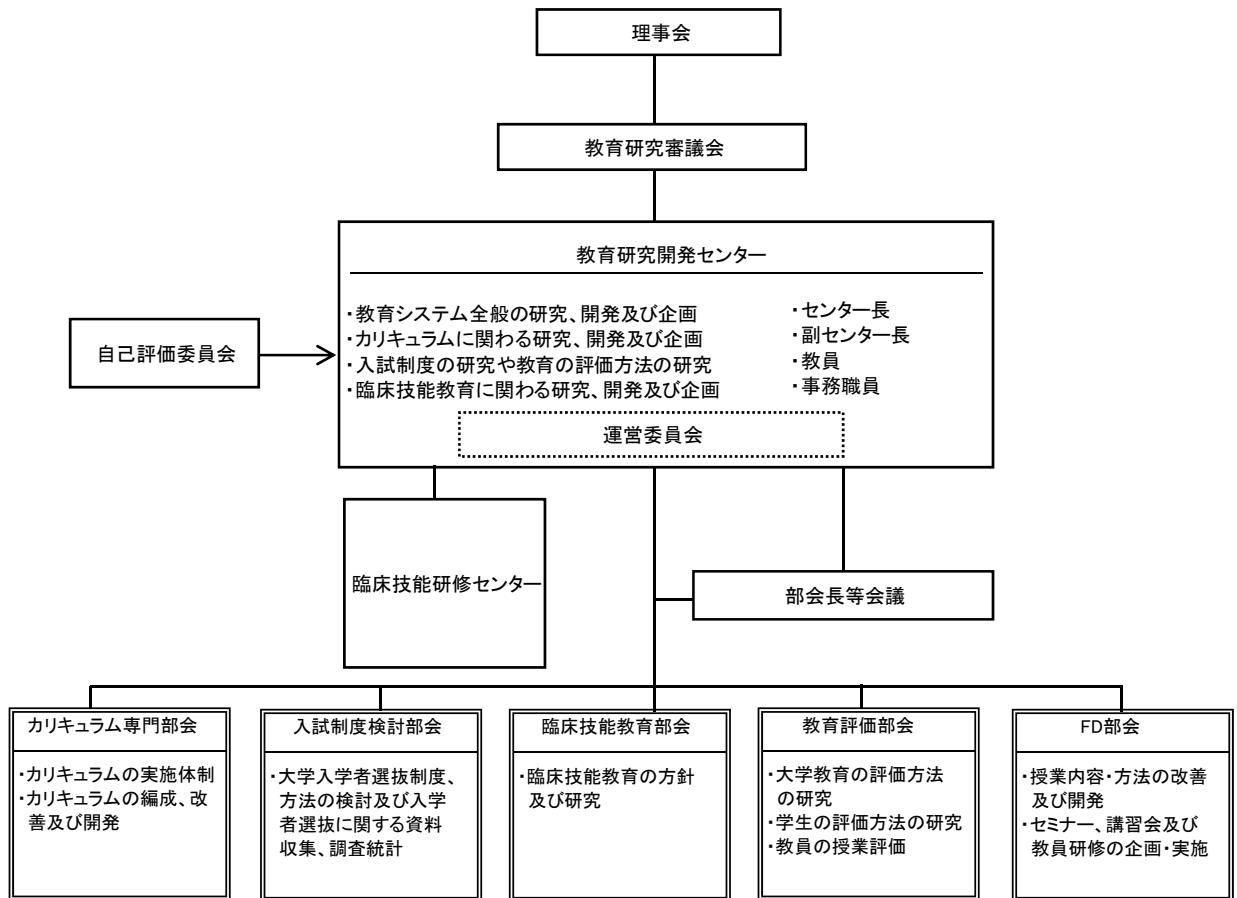


**C**enter for  **D**evelopment  
**E**ducational **R**esearch and

# 目 次

組織図	2
刊行にあたって	3
1. 教育研究開発センター	
規程・要項	
(1) センター規程	4
(2) 運営委員会委員	7
(3) 部会委員	7
2. 平成22年度事業実績	
1. 医学部	
開催した部会一覧	11
開催したFD一覧	13
和歌山SPの会	17
取り組んだ事業	19
発行した冊子等一覧	25
日本医学教育学会総会での発表内容	28
2. 保健看護学部	
開催した委員会一覧	30
開催したFD一覧	32
発行した冊子等一覧	34
取り組んだ事業	35
学生自主カリキュラムの取組	37
3. 臨床技能研修センター	
(1) 運営規程	40
(2) 利用方法	44
(3) 備品一覧	46
(4) 利用実績	49
4. ホームページの案内	
◆ 教育研究開発センターホームページ	57
◆ 臨床技能研修センターホームページ	58
◆ 大学教育学生支援推進プログラム【テーマA】ホームページ	59
◆ 実践的「地域医療マインド」育成プログラムホームページ	60
◆ 地域医療等社会ニーズに対応した質の高い医療人育成推進プログラムHP	61
5. 札幌医科大学との交流会	62
6. 実践的「地域医療マインド」育成プログラム報告会	64

和歌山県立医科大学  
教育研究開発センター組織図



## 刊行にあたって

教育研究開発センター長 羽野卓三

和歌山県立医科大学教育研究開発センターは平成 22 年度で 5 年目に入ります。平成 18 年の開設直後に開始し、順次行ってきた医学部の教育改革も本年度の臨床実習の改革で最終段階の改革を終了しました。一方、センターの開設以後、医学部学生定員が 60 名から 100 名まで段階的に増員され、施設などのハード面に加え、カリキュラムなどソフト面での対応に迫られた 5 年間でもありました。学生数の増加では、量的な変化とともに質的な変化を経験することとなりました。施設面では、新たな医学部教養棟を三葛キャンパスに開設し、紀三井寺キャンパスの基礎教育棟の講義室を定員増に対応するため改築し、実習室の移築・増築も行いました。また、高度医療人育成センターを紀三井寺キャンパスに開設し臨床技能研修、e-learning などの IT 教育を行える情報研修の環境を整えることができました。カリキュラムでは、コアカリキュラムに準じた統合的なカリキュラムとし、PBL も各学年で導入することができました。また、プロフェッショナリズムおよび地域医療マインドの育成のため 1 年、2 年、3 年時に地域実習を全員に行うように改定しました。臨床実習では 5 年生の 5 月から 44 週間の実習期間を 4 月当初からの 50 週間に延長し、最後の 2 か月は 4 週間の実習とし、県下の 16 病院での研修が可能となりました。5 年間の改定で、教育の構造的な体裁を整えることができましたと考えています。教育評価の面では、授業評価の公表、試験問題の精度管理などを行うことができました。一方で、種々の問題も目立つようになってきました。1 つは学生の気質の変化です。定員増以後、低学年で勉学への意欲の低下がやや目立つようになりました。同時に、共用試験の本格稼働後、教育手法が専門化したこと、医学教育の専門組織ができたこと、臨床業務が増加したことなどにより一部教員において教育への熱意が低下している状況があるように感じています。保健看護学部では和歌山県立医科大学保健看護学会の設立で研究活動が活性化され、学生の自主カリキュラムも多くの成果を生むことができました。

平成 22 年は医学部のモデルコアカリキュラムが改定され、臨床実習の一層の充実が求められています。平成 18 年度に始まった 5 年間のカリキュラム改革で実現できた構造的な変革を基礎に今後は教育内容の一層の充実を行う必要があります。とくに臨床実習においては、clinical reasoning ができる能力をつけるため、真の参加型臨床実習を具現化する必要があります。今後、施行されるであろう教育内容の認証に対応し、国際基準を満たす教育カリキュラムを実現するために新たなカリキュラム改革に踏み出す時期です。さらに、多くの地域枠、県民医療枠の学生に対する対応など問題は山積しております。

教育改革は大胆さ、俊敏さとともに継続性が必要です。優れた医師・看護師を育てるには教育の枠組みとともに、それを支える教員、病院職員、患者、社会、そして何より学生自身の自覚と社会全体の協力なしでは成し遂げられません。1 人でも多くの優れた医療人を育てることに皆様方の協力を願って止みません。

## 和歌山県立医科大学教育研究開発センター規程

制 定 平成 18 年 4 月 1 日 和医大規程第 1 4 号

最終改正 平成 22 年 2 月 23 日

(趣旨)

第 1 条 この規程は、和歌山県立医科大学組織運営規則（平成 1 8 年 4 月 1 日和医大規則第 4 号。）第 1 9 条の規定に基づき、和歌山県立医科大学教育研究開発センター（以下「センター」という。）の組織及び運営に関し、必要な事項を定めるものとする。

(目的)

第 2 条 センターは、和歌山県立医科大学（以下「本学」という。）における医学・保健看護学教育の研究、開発、企画及び評価方法の研究並びに入試制度の研究を行うことにより、本学の医学・保健看護学教育活動の円滑な推進と不断の改善に寄与することを目的とする。

(自己評価等)

第 3 条 センターは、和歌山県立医科大学学則（平成 1 8 年和歌山県立医科大学規則第 1 号。）第 2 条の定めるところにより、センターに係る点検及び評価（以下「自己評価」という。）を行い、その結果を公表する。

2 前項の自己評価については、本学の職員以外を含めた者による検証を受けるよう努めるものとする。

3 第 1 項の自己評価を行うため、和歌山県立医科大学教育研究開発センター自己評価委員会（以下「自己評価委員会」という。）を置く。

4 自己評価委員会に関し必要な事項は、別に定める。

(教育研究等の状況の公表)

第 4 条 センターは、センターの教育研究及び組織運営の状況について、定期的に公表する。

(業務)

第 5 条 センターにおいては、次の各号に掲げる業務を行う。

- 一 医学・保健看護学教育システム全般に関わる研究、開発及び企画
- 二 医学・保健看護学教育の内容・方法及び授業改善（FD）に関わる研究、開発及び企画
- 三 医学・保健看護学教育のカリキュラムに関わる研究、開発及び企画
- 四 医学・保健看護学教育の臨床技能教育に関わる研究、開発及び企画
- 五 医学・保健看護学教育の評価方法の研究
- 六 入試制度の研究
- 七 その他センターの目的を達成するため、必要な事項

(部会)

第6条 センターに次の各号に掲げる部会を置く。

- 一 カリキュラム専門部会
- 二 入試制度検討部会
- 三 臨床技能教育部会
- 四 教育評価部会
- 五 FD部会

2 部会に関し必要な事項は、別に定める。

(職員)

第7条 センターに次の各号に掲げる職員を置く。

- 一 センター長
- 二 副センター長
- 三 本学の専任教員のうちから学長がセンターに兼ねて勤務を命じた者
- 四 その他必要な職員

2 前項第2号から第4号までの職員は、センター長の命を受け、センターの業務に従事する。

3 第1項第3号の職員が兼ねて勤務を命令される期間は、2年とし、再び命ずることができる。ただし、欠員を生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

(センター長)

第8条 センター長は、教育研究開発センター専任教授をもって充てる。

2 センター長の任期は、当該センター長の専任教授としての任期とする。

3 センター長は、センターに関する事項を掌理する。

(副センター長)

第9条 副センター長は、本学の専任教員のうちから、センター長が命ずる。

2 副センター長は、センター長の業務を補佐し、センター長に事故があるときは、その職務を代理する。

3 副センター長の任期は、2年とし、再任を妨げない。ただし、欠員を生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

(運営委員会)

第10条 センターに、和歌山県立医科大学教育研究開発センター運営委員会（以下「運営委員会」という。）を置き、センターの教育又は研究に関する重要事項を審議させる。

2 運営委員会に関し必要な事項は、別に定める。

(庶務等)

第11条 センターの庶務は、事務局学生課において処理する。

(雑則)

第12条 この規程に定めるもののほか、センターに関し必要な事項は、別に定める。

附 則

この規程は、平成18年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成22年4月1日から施行する。

## 和歌山県立医科大学教育研究開発センター部会長等会議運営要項

制 定 平成18年7月1日 和医大教研開セ要項第1号

最終改正 平成22年4月1日

(趣旨)

第1条 この要項は、和歌山県立医科大学教育研究開発センター運営委員会規程（平成18年和医大規程第15号）第7条第2項の規定に基づき、部会長等会議の組織、運営等に関し、必要な事項を定めるものとする。

(部会長等会議)

第2条 部会長等会議は、次の各号に掲げる者で組織する。

一 センター長

二 各部会長

三 その他センター長が必要と認めた運営委員会委員

2 センター長は、部会長等会議を招集し、その議長となる。

3 部会長等会議は、運営委員会の要請に基づき、各部会相互に連携または調整が必要とされる事項及び特定の審議事項を審議する。

(要項の改廃等)

第3条 この要項に疑義が生じた場合の解釈及び改廃は、センター運営委員会において行う。

(庶務等)

第4条 この要項に関する庶務は、事務局学生課において処理する。

附 則

この要項は、平成18年7月1日から施行する。

附 則

この要項は、平成22年4月1日から施行する。

## 教育研究開発センター運営委員会委員

(平成22年度)

議長	板倉 徹	理事長・学長
委員	羽野 卓三	教育研究開発センター長
委員	岸岡 史郎	医学部長
委員	山田 和子	保健看護学部長
委員	篠崎 和弘	学生部長
委員	岩橋 秀夫	入試・教育センター長
委員	脇田 文広	事務局 事務局長
委員	岡村 吉隆	病院長

## センター一部会委員

(平成22年度)

### ◆ カリキュラム専門部会

部会長	羽野 卓三	教育研究開発センター長
副部会長	山田 和子	保健看護学部長
医学部委員	羽野 卓三	教育研究開発センター長
	岩橋 秀夫	教養・医学教育大講座 教授
	池田 裕明	教養・医学教育大講座 教授
	鶴尾 吉宏	解剖学第一教室 教授
	村垣 泰光	病理学第一教室 教授
	赤阪 隆史	内科学第四教室 教授
	吉田 宗人	整形外科科学教室 教授
	佐々木 秀行	内科学第一教室 准教授
	上野 雅巳	卒後臨床研修センター長
	中尾 直之	脳神経外科学教室 講師
保健看護学部委員	山田 和子	保健看護学部長
	志波 充	保健看護学部 教授
	池内 佳子	保健看護学部 教授
	有田 幹雄	保健看護学部 教授
	上松 右二	保健看護学部 教授
	内海 みよ子	保健看護学部 教授
	鈴木 幸子	保健看護学部 教授
	西村 賀子	保健看護学部 教授
	森岡 郁晴	保健看護学部 教授



鹿村 真理子	保健看護学部 教授
岩原 昭彦	保健看護学部 准教授
服部 園美	保健看護学部 講師
坂本 由希子	保健看護学部 講師

◆ 臨床技能教育部会

部会長

羽野 卓三

教育研究開発センター長

副部会長

山田 和子

保健看護学部長

医学部委員

OSCE 部会

羽野 卓三

教育研究開発センター長

岡 政志

内科学第二教室 准教授

今西 敏雄

内科学第四教室 准教授

内山 和久

外科学第二教室 准教授

中 敏夫

救急・集中治療部 准教授

古田 浩人

内科学第一教室 講師

村田 顕也

神経内科 講師

柑本 康夫

泌尿器科学教室 講師

宮本 武

眼科学教室 講師

CBT 部会

羽野 卓三

教育研究開発センター長

鶴尾 吉宏

解剖学第一教室 教授

村垣 泰光

病理学第一教室 教授

竹下 達也

公衆衛生学教室 教授

篠崎 和弘

神経精神医学教室 教授

入江 真行

医学医療情報研究部 准教授

西 理宏

内科学第一教室 准教授

尾浦 正二

外科学第一教室 准教授

水本 一弘

麻酔科学教室 准教授

保健看護学部委員

山田 和子

保健看護学部長

志波 充

保健看護学部 教授

水田 真由美

保健看護学部 准教授

黒田 裕子

保健看護学部 講師

◆ FD 部会

部会長	山田 和子	保健看護学部長
副部会長	鶴尾 吉宏	解剖学第一教室 教授
医学部委員	鶴尾 吉宏	解剖学第一教室 教授
	羽野 卓三	教育研究開発センター長
	井原 義人	生化学教室 教授
	篠崎 和弘	神経精神医学教室 教授
	三家 登喜夫	臨床検査医学教室 教授
保健看護学部委員	山田 和子	保健看護学部長
	内海 みよ子	保健看護学部 教授
	柳川 敏彦	保健看護学部 教授
	鹿村 真理子	保健看護学部 教授
	池田 敬子	保健看護学部 講師
	岡本 光代	保健看護学部 助教

◆ 入試制度検討部会

部会長	山田 和子	保健看護学部長
副部会長	羽野 卓三	教育研究開発センター長
医学部委員	羽野 卓三	教育研究開発センター長
	中村 正信	教養・医学教育大講座 教授
	岩橋 秀夫	教養・医学教育大講座 教授
	仙波 恵美子	解剖学第二教室 教授
	竹下 達也	公衆衛生学教室 教授
	篠崎 和弘	神経精神医学教室 教授
	近藤 智善	神経内科 教授
保健看護学部委員	山田 和子	保健看護学部長
	志波 充	保健看護学部 教授
	池内 佳子	保健看護学部 教授
	有田 幹雄	保健看護学部 教授
	上松 右二	保健看護学部 教授
	西村 賀子	保健看護学部 教授
	岩橋 秀夫	教養・医学部大講座 教授

◆ 教育評価部会

部会長	羽野 卓三	教育研究開発センター長
副部会長	山田 和子	保健看護学部長
医学部委員	羽野 卓三	教育研究開発センター長
	岩橋 秀夫	教養・医学教育大講座 教授
	村垣 泰光	病理学第一教室 教授
	篠崎 和弘	神経精神医学教室 教授
	畑埜 義雄	麻酔科学教室 教授
	出口 寛文	大阪医科大学 教育機構 教授
保健看護学部委員	山田 和子	保健看護学部長
	水主 千鶴子	保健看護学部 教授
	森岡 郁晴	保健看護学部 教授
	柳川 敏彦	保健看護学部 教授
	黒田 裕子	保健看護学部 講師
	辻 あさみ	保健看護学部 講師

◆ 教育研究開発センター自己評価委員会

羽野 卓三	教育研究開発センター長
岸岡 史郎	医学部長
山田 和子	保健看護学部長
篠崎 和弘	学生部長
岩橋 秀夫	入試・教育センター長
岡村 吉隆	病院長
出口 寛文	大阪医科大学教育機構 教授
大江 嘉幸	和歌山市教育委員会 教育長

平成22年度事業実績

医 学 部

## 開催した部会一覧

### 教育評価部会

#### 第1回

開催日時：平成23年1月5日（水）

- 議 事： 1. 臨床実習評価表に係る評価項目の見直しについて  
2. カリキュラムポリシー・ディプロマポリシーについて  
3. 授業相互評価について  
4. 5年次の進級判定について

### 入試制度検討部会

#### 第1回

開催日時：平成22年4月27日（火）

- 議 事： 1. 平成23年度入学試験について  
2. 平成24年度大学入試センター試験の変更に伴う対応について  
3. アドミッションポリシーについて（報告）

### カリキュラム専門部会

#### 第1回

開催日時：平成22年8月5日（木）

- 議 事： 1. 今年度のカリキュラムについて  
2. 解剖学実習の期間等について  
3. 臨床実習について

#### 第2回

開催日時：平成22年11月9日（火）

- 議 事： 1. カリキュラム（1年次）について  
2. カリキュラム（2年次）について  
3. カリキュラム（3年次）について  
4. カリキュラム（4年次）について  
5. 選択ポリクリについて

### 臨床技能教育部会

#### 第1回

開催日時：平成22年12月15日（水）

- 議 事： 1. 平成22年度CBT・OSCEの運用について

2. 平成23年度OSCEの運用について
3. その他

## **FD 部会**

### 第1回

開催日時：平成22年4月27日（火）

議 事：事業（開催）計画について

## **自己評価委員会**

### 第1回

開催日時：平成22年12月13日（月）

議 事：平成21年度教育研究開発センター事業実績報告書について

1. 学外者のスキルラボ使用に際しての使用料について
2. スキルラボの予算規模について
3. 地域医療について当該報告書に記載するか否かについて
4. 事業を計画する段階での各科への要望伺いの必要性 について

## 開催したFD一覧

### 第1回

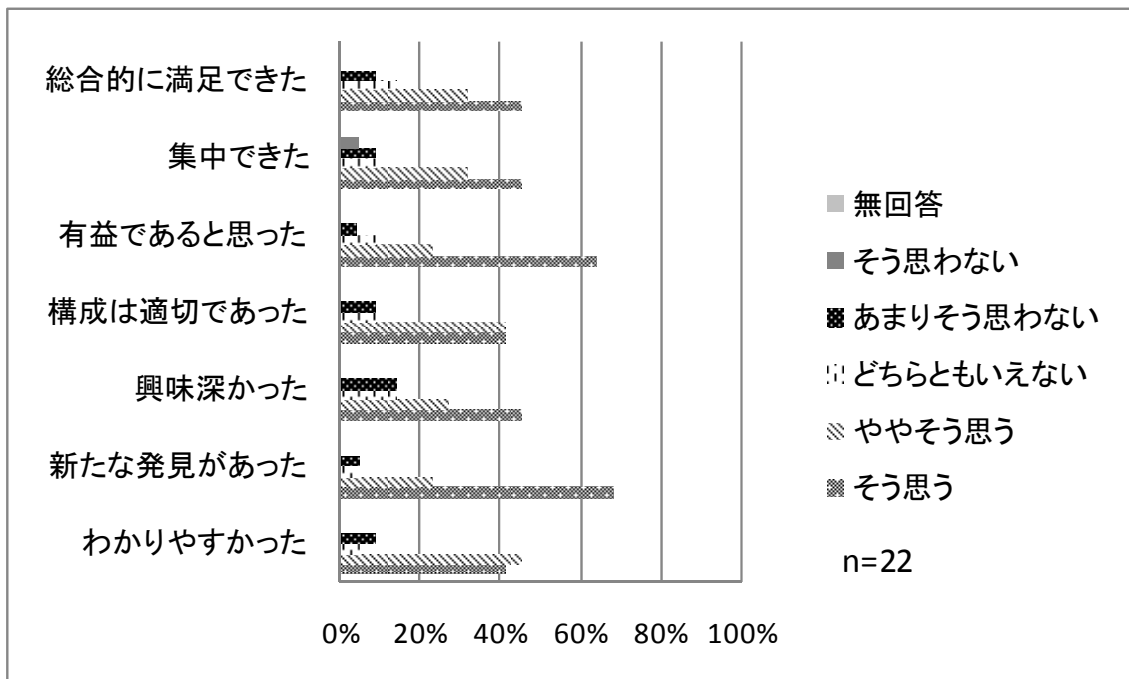
開催日時：平成22年4月28日（水）

演 題：CBT 試験問題作成について

講 師：和歌山県立医科大学 教育研究開発センター  
センター長 羽野 卓三

参加者数：24名

### FD 終了後に実施したアンケートの結果



## 第2回

開催日時：平成22年10月22日（金）

演 題：授業の相互評価による改定作業

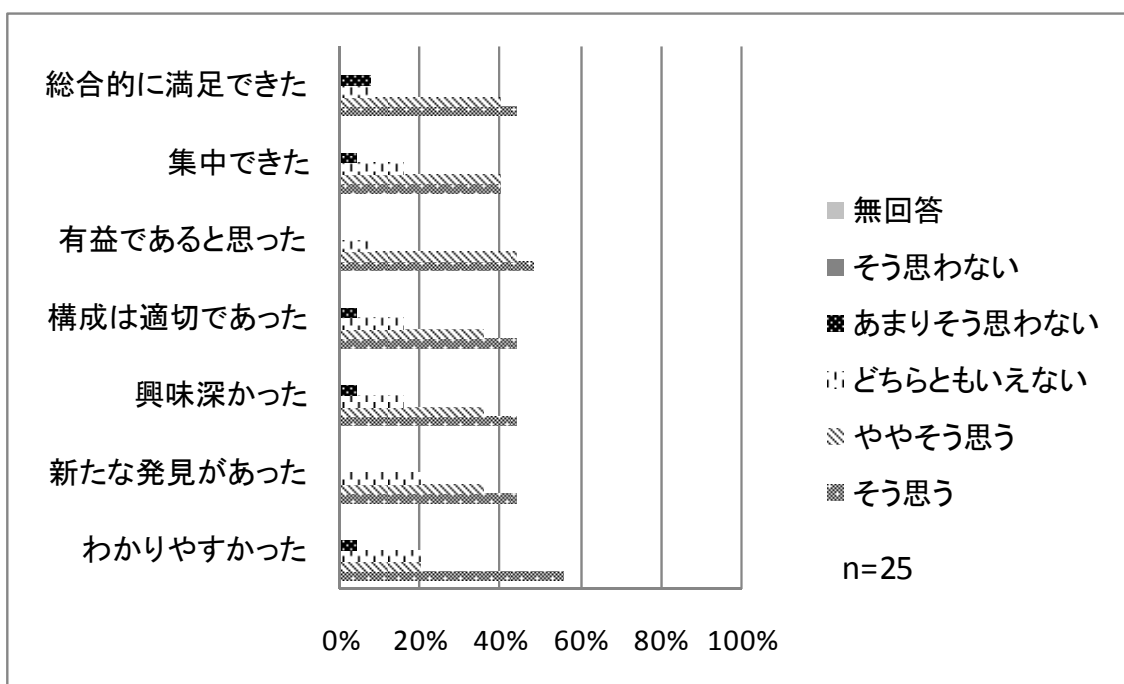
授業改善を目指して

講 師：和歌山県立医科大学 教育研究開発センター

センター長 羽野 卓三

参加者数：29名

### FD 終了後に実施したアンケートの結果





### 第3回

開催日時：平成22年11月26日（金）

演 題：Outcome-based 医学教育～教育資源としてのスキルス・ラボラトリー～

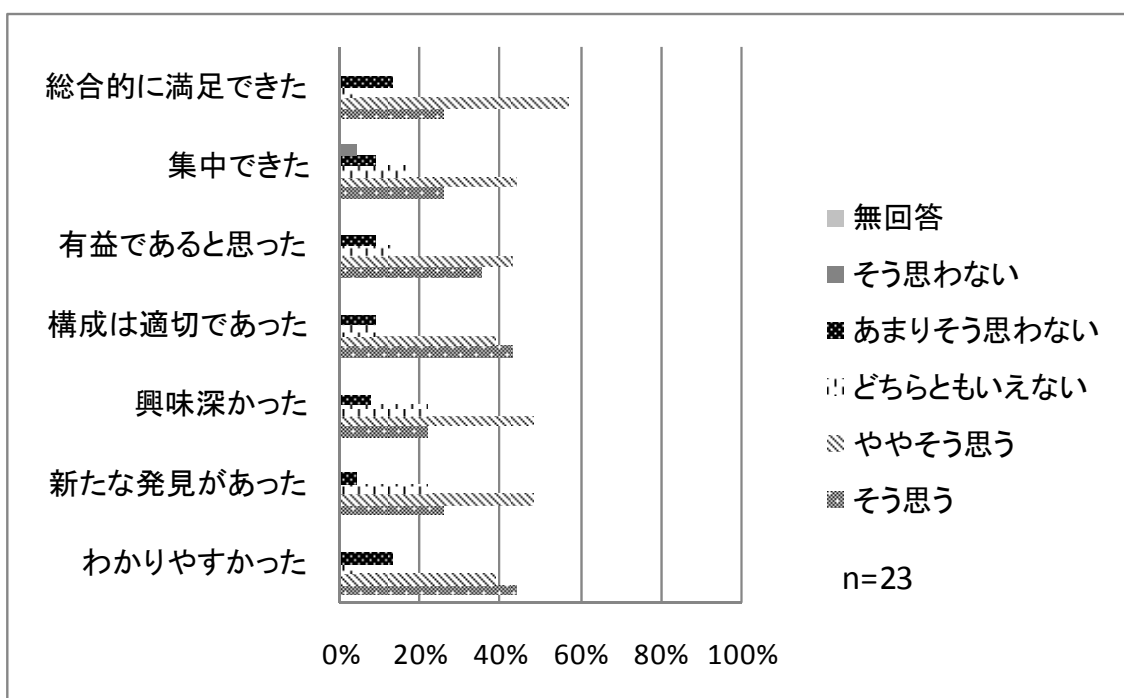
講 師：福島県立医科大学

医療人育成・支援センター

准教授 石川 和信 先生

参加者数：29名

### FD 終了後に実施したアンケートの結果



#### 第4回

開催日時：平成22年12月24日（金）

演 題：医学教育の流れとチーム基盤型学習（TBL）

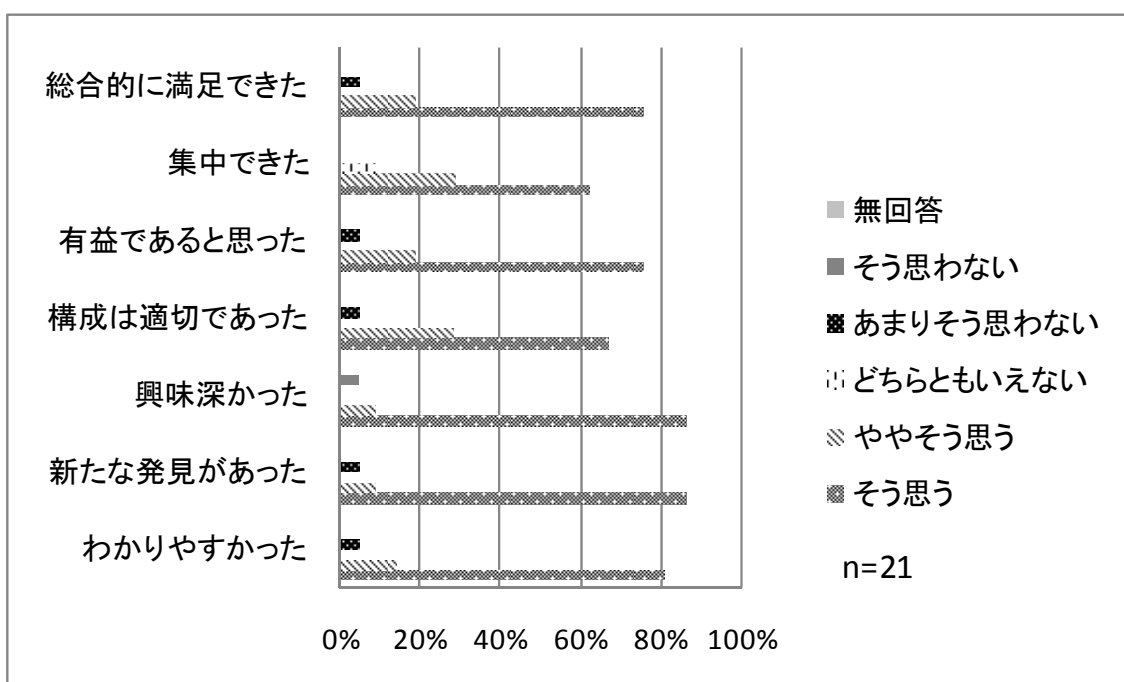
講 師：高知大学医学部附属病院

総合診療部

教授 瀬尾 宏美 先生

参加者数：28名

#### FD 終了後に実施したアンケートの結果



# 和歌山SPの会

SP (Simulated Patient : 模擬患者) は、医療従事者の研修などで患者さんの役をします。医療現場でのコミュニケーションを改善するために重要性が高まっており、ケアマインドを併せもった医療人教育を進めるためにも必要です。和歌山 SP の会は、平成 18 年度に設立され、臨床技能教育の効果を高めるよう研修を重ねています。

## 平成 22 年度の開催内容

	開催日時	内容
第 33 回	平成 22 年 4 月 14 日 (水)	新シナリオによる研修 (1)
第 34 回	平成 22 年 5 月 12 日 (水)	Advanced OSCE について
第 35 回	平成 22 年 6 月 9 日 (水)	Advanced OSCE の直前練習
第 36 回	平成 22 年 6 月 21 日 (月)	Advanced OSCE
第 37 回	平成 22 年 7 月 28 日 (水)	新シナリオについて疾患の説明
第 38 回	平成 22 年 9 月 8 日 (水)	新シナリオについて疾患の説明 医療面接のビデオフィードバック
第 39 回	平成 22 年 10 月 13 日 (水)	医療面接のビデオフィードバック
第 40 回	平成 22 年 11 月 10 日 (水)	「Heart-to-Heart 研究会」・「和歌山 SP の会」第 1 回合同研修会
第 41 回	平成 22 年 12 月 15 日 (水)	医療面接練習とフィードバック
第 42 回	平成 23 年 1 月 19 日 (水)	医療面接練習とフィードバック

	開催日時	内容
第 43 回	平成 23 年 2 月 16 日 (水)	医療面接練習とフィードバック
第 44 回	平成 23 年 3 月 8 日 (火)	臨床実習入門：医療面接

## 「Heart-to-Heart 研究会」・「和歌山SPの会」第1回合同研修会

第 40 回和歌山 SP の会において「Heart-to-Heart 研究会」（大阪大学・奈良県立医科大学模擬患者の会）と「和歌山 SP の会」合同研修会を行いました。

開催日時：平成 22 年 12 月 15 日 (水) 13 時～15 時

開催場所：高度医療人育成センター 5 階 中研修室

参加者人数：23 名

(Heart-to-Heart 研究会 9 名、和歌山 SP の会 9 名、教育研究開発センター 5 名)

### 次 第

#### 1. 全体講習会 13 時～13 時 35 分

- 高度医療人育成センターの取組みについて 教育研究開発センター 羽野 卓三
- 大阪大学・奈良県立医科大学 SP の会について 大阪大学 SP の会 倉橋 広子
- 和歌山 SP の会 現状について 和歌山 SP の会 北田 玲子

#### 2. グループ討論 13 時 45 分～14 時 30 分

- ① SP 養成における問題点
- ② 共用試験のシナリオについての問題点
- ③ 標準模擬患者と模擬患者の演技の差異について

#### 3. 総合討論 14 時 35 分～15 時

##### 1. Heart-to-Heart SP 研究会の取組みについて

Heart-to-Heart SP 研究会 清原 達也

## 取り組んだ事業

### 平成 22 年度「大学教育・学生支援推進事業」 プラグマティズム的臨床医育成プログラム ーハードマインドとソフトマインドの融合による患者評価に立脚した 「実践的臨床医」育成プログラムー

事業の概要：臨床医には科学的根拠に基づく医学的知識、臨床技能(Hard-mind)とともに、患者の精神的、社会的状況を把握し共感する能力(Soft-mind)が必要である。臨床の現場では、科学的・医学的根拠に立脚した診断を行うとともに患者の意志、精神的・社会的状況などを加味し、患者個人にとって最も適した治療方針を決定することによって、初めて患者が満足できる医療を提供することができる。Hard-mind と Soft-mind の融合は臨床的経験によって初めて可能になるものであり、プラグマティズムに立脚した経験的臨床能力の育成が必要である。Hard-mind と Soft-mind をどのように患者個人に適応するかは、個々のケースで異なり、豊富な臨床経験が必要であるが、このような観点は現在の医学教育においても最も欠けている要素である。過去数年間、本学医学部は問題解決型養育の導入とともに心の教育（ケアマインド教育＝Soft-mind 教育）に取り組んできた。臨床実習の現場でこれらの取り組みと科学的知識が適切に融合されることが重要であるが、教育の現場では、これらを融合させるためのプログラムを実行するに至っていなかった。

今回の取り組みでは、現在継続的に行っている Soft-mind 教育と Hard-mind 教育の成果を実習の中で活かしつつ、最終的に臨床実習の場において融合し、多面的に評価することによって、患者が求める臨床医を養成することにある。本プログラムはステップ 1 から 4 で形成される。ステップ 1 での 1 年次の Hard-mind 教育と Soft-mind 教育および経験教育は、教養教育とケアマインド教育および老人福祉施設実習、ステップ 2 の 2-3 年次は基礎医学教育と医療行動学および保育所・障害者施設、ステップ 3 は臨床医学・臨床技能教育と臨床実習準備教育、ステップ 4 は最終段階として統合的な臨床実習からなる。評価としては、従来からの医学部教員による基礎医学・臨床医学の知識、画像読映能力、臨床推論能力などの評価に加え、看護師による性格、精神状態などの把握の評価と本人および家族からの患者自身への態度や気配りなど評価を加味する。さらに、「医師としての適性」をもって概略評価とする。最終的には学生が科学的根拠に基づいた診断と患者の精神的・社会的背景に応じて作成した臨床的な治療方針を教員と看護師が総合的に評

価する。評価を基に臨床医としての実践的な能力、患者に満足を与えられる医療を提供できる能力をもっているかをフィードバックし、PDCA サイクルを機能させることで、患者が求める臨床医を養成する。さらに各評価の内容について解析するとともに、臨床研修医についても同様の評価を行い、臨床医として重要な要素の解析も行う。

## 「大学教育・学生支援推進事業」 平成 22 年度事業終了時点での中間報告

### 病棟でのアンケート

評価の内容は、Hard-mind 評価、Soft-mind 評価、患者満足の評価とし、それぞれ教員（指導医）、看護師、患者および家族が評価を行う。Hard-mind の評価項目としては評価シートに記載している基礎医学・臨床医学の知識、画像読映能力、臨床推論能力などとする。Soft-mind の評価の項目としては、性格、精神状態などの把握などとし、患者満足の評価としては患者自身への態度や気配りなど評価を加味する（図 7）。さらに、医師としての適正を概略評価する。最終的には学生が科学的根拠に基づいた診断と患者の精神的・社会的背景に応じて作成した臨床的な治療方針を教員と看護師が評価する。評価を基に臨床医としての実践的な能力、患者に満足を与えられる医療を提供できる能力を持っているかをフィードバックし、PDCA サイクルを機能させる。さらに、今回の取り組みが卒業後の診療内容に影響を与えるかをみるため、本学で研修する卒業生と他の大学卒業に同様の調査をし、本学の取り組みの有効性について検証する。同時に、今回の評価の内容がその後の医師としての能力に関わるかを評価する。評価シートの解析については、教育研究開発センターの専任教員および職員が担当する。

Soft-mind 評価								
学生氏名	_____				訪問回数	_____ 回		
患者氏名	_____				訪問時間	_____ 分/回		
	よい	1	2	3	4	5	悪い	
性格の把握						患者さんの個性		
精神状態の把握						不安、心配、認知能力 疾患や治療の理解度		
* 病気の不安						経済的状況の把握		これまでの生活 これからの生活
* 治療の不安						全身状況の把握		生活費、治療費 公的な助成 収入の変化
* 家族の心配						コミュニケーション能力		医学的知識、 技術、治療法選択
								患者さんの気持ち、思い わかりやすい言葉 話しやすい雰囲気作り 何度も同じこと
* 経済的不安						医師としての適性		他の医療従事者 (ナース、検査、 リハ、薬剤師など)

図 7. 患者用アンケート評価シート

指導医からの評価では、基礎医学や臨床技能についての項目の評価が悪かった（よいが1、悪いが5とした）（図8）。また、患者からの評価では、接遇や身だしなみの評価は高かったが、家族、経済的、社会的因子については評価が低かった（図9）。看護師からの評価では、性格や精神的不安に対する配慮などについては評価が高かったが、家族や経済的な要因への配慮は少なかった（図10）。指導医からの評価と総合成績および共用試験OSCEとは有意な相関があった（図11）。一方、患者からの評価は総合成績および共用試験の成績とは相関がなかった。また、看護師からの評価についても成績とは有意な相関はなかった。

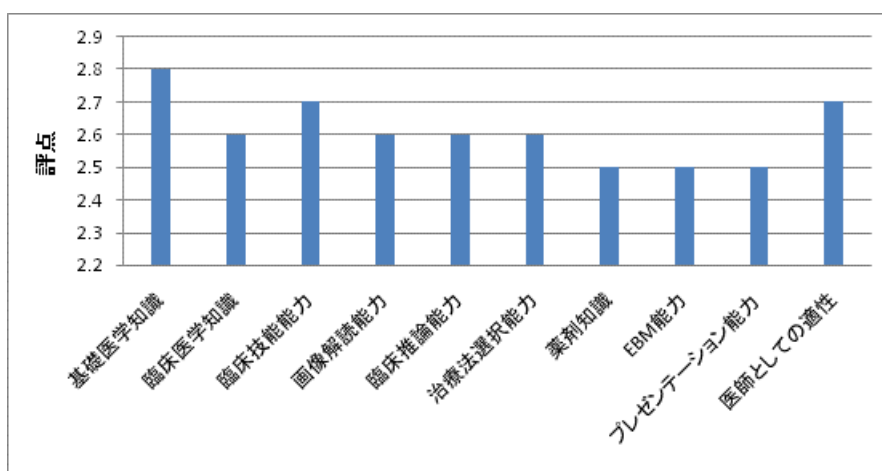


図8. 指導医からの評価

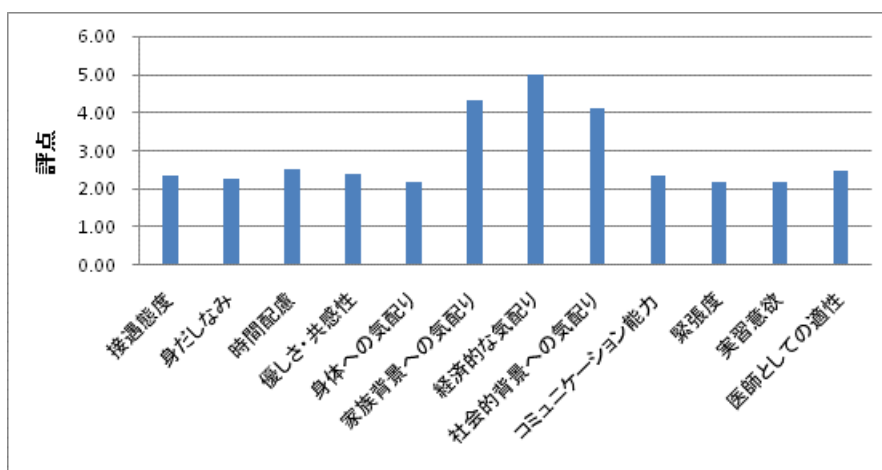


図9. 患者からの評価

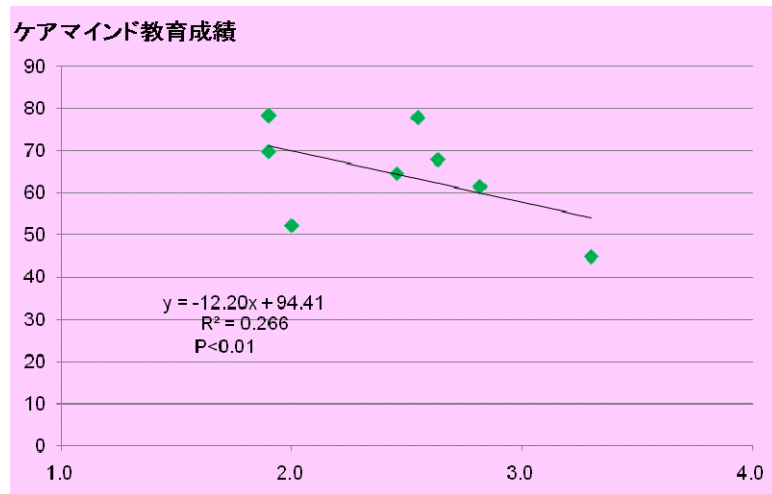


図 10. 看護師からの評価

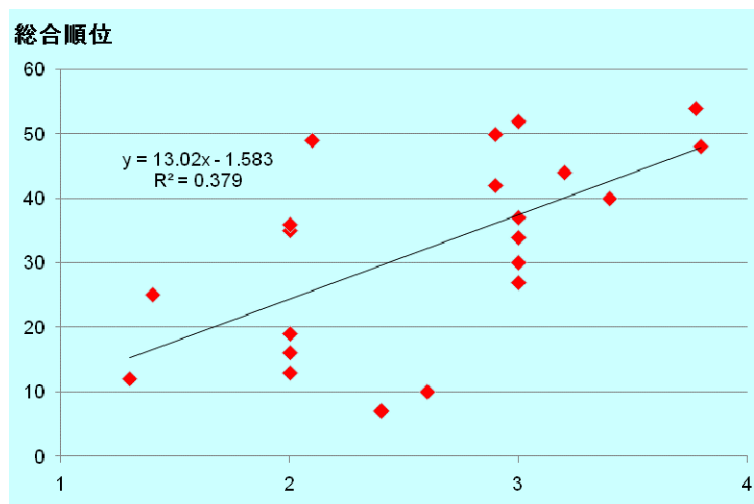


図 11. 指導医の評価の総合点と 4 年時の総合成績順位との相関

### まとめ

今回のアンケートの結果、学生と患者関係は比較的良好であり、評価も高いが、疾患に関する情報の聴取が中心であり、家族、経済的な状況など患者背景に関する内容については十分に状況を把握できていなかった。講義、実習の評価、共用試験などとの相関は、指導医が評価した、臨床知識、技能とは相関するが、患者や看護師からの評価とは一致せず、医師になった後の患者満足度との関連を今後追跡調査する。



## **大学が発信する地域と職域の保健医療支援事業 —地域・職域のちからと手を携えて—**

事業の概要：三重大学・奈良県立医科大学・和歌山県立医科大学の連携により、紀伊半島における行政的枠を超えた大学間連携により地域病院の専門研修を実施し、地域医療の活性化と高度医療人の育成を図る。

## **平成 19 年度「新たな社会的ニーズに対応した学生支援プログラム」 実践的「地域医療マインド」育成プログラム —社会的ニーズに対応した医療人の育成をめざして—**

事業の概要：本学の学生支援の目標は、ケアマインドの育成と人間力・自主性の育成である。そのため、カリキュラムの改革、ボランティア活動の支援、学生相談室による心のケアに取り組んできた。今、地域医療が崩壊の危機に瀕している。医療の原点、主人公は、病気や障害を抱えて地域に暮らす人々である。「地域医療」のネガティブなイメージを払拭して、その魅力とやりがいを学生時代から体験させる必要がある。カリキュラムの中で医療を必要としている現場を体験して、どのような医師や看護師が求められているかを肌で感じさせる。地域医療サークルなど学生の自主的活動と自主カリキュラムを支援する。以上の取組を大学として推進するため「地域医療マインド育成センター」を設置する。さらに、本学に既存の「生涯研修・地域医療支援センター」と「地域医療学講座」との連携を図り、「地域医療マインド」を生かす実践の場として魅力的な地域医療の現場を創出する。

## **平成 19 年度「地域医療等社会的ニーズに対応した質の高い医療人養成推進プログラム」 女性医師の出産育児休業からの職場復帰支援 —特に FD 教育による意識改革とコーチングによる自己実現プログラム—**

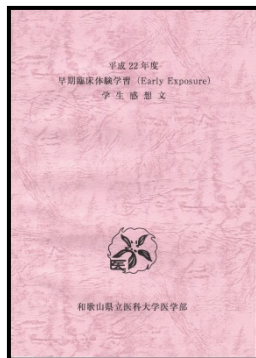
事業の概要：現在、医師全体に占める女性医師の割合は著しく増加傾向にあり、その数は将来的には 40 パーセントを超えることが予想される。しかし、女性が働き続けるためのインフラが完全に整備されていないこと、未だ男性社会の中で、

職場や家族の理解が十分に得られず結婚・出産・育児によって女性医師が退職することも珍しくない。たとえ社会復帰を本人が望んでも、実技を含めた最新の医療技術を維持するための再教育システムの不備、育児と仕事の両立を支援するシステムの不備によって医療現場への復帰を困難にしている。このような状況から大学病院とその関連病院では残された勤務医の負担が増加し、過重労働を強いられ疲弊するスパイラルが形成されている。本取組は、女性医師支援センターを創設し、特にFD教育による意識改革とコーチングを活用して育児休業者の豊かな生活、職場復帰のモチベーションの持続、復帰後の育児と仕事の両立を支援するプログラムである。

# 発 行 し た 冊 子

教育研究開発センターでは平成 22 年度に以下の冊子を発行しました。

## 平成 22 年度 1 年生 早期臨床体験実習 (Early Exposure) 学生感想文



平成 22 年度 1 年生が県下の医療機関にて行った体験実習についての感想文です。

発行年月：平成 23 年 2 月

## 平成 22 年度 1 年生 地域福祉関係施設実習報告書

平成 22 年度医学部 1 年生が行った 5 日間の介護実習に関するレポートや写真などを掲載しています。

発行年月：平成 23 年 3 月

編集：平成 22 年度 1 年生

地域福祉関係施設学生実習報告書編集委員会

実習の概要：核家族化が進み、医学生においても子どもや高齢者など世代の異なる人との関係が希薄になっていますしかし、医師となるべき医学生にとってはコミュニケーション能力が「命」にもかかわるもので、研鑽を積む必要があります。そこでケアマインドを併せもった医療人の育成を効果的に進めるため、1 年次に医療機関だけでなく、老人福祉施設などで実習を行っています。



## 平成 22 年度 2 年生 保育園実習学生感想文



平成 22 年度 2 年生が行った保育園での実習の感想文を掲載しています。

発行年月：平成 23 年 3 月

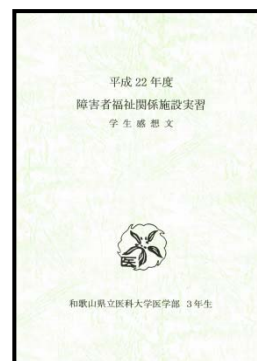
実習の概要：1 年次の早期体験実習、地域福祉施設での体験実習に続いた実習です。乳幼児と接することによりコミュニケーション能力の向上を目的としています。また、実習を通じ、育児を支援する保育園の現状を学びます。

## 平成 22 年度 3 年生 障害者福祉関係施設実習学生感想文

平成 22 年度 3 年生が行った障害者福祉施設での実習についての学生の感想文を掲載しています。

発行年月：平成 23 年 3 月

実習の概要：大学病院ではほとんど経験することの出来ない障害者福祉施設での実習を行うことにより、さらにケアマインドを育成し、医療の現状について理解を深めることにより、医療人としての資質の向上に努める。



## 平成 22 年度 5 年生医療問題ロールプレイ パンフレット・DVD

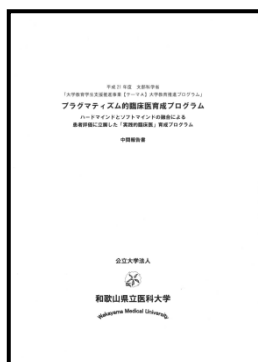
平成 22 年度 5 年生が取り組んだ医療問題ロールプレイの全ての班の上演を録画した DVD と各班の概要を掲載したパンフレットです。

発行月：平成 22 年 5 月

ロールプレイ概要：医療問題ロールプレイは、学生が現在の医療と体制の問題点を探り、「医療のあるべき姿」をえがき、発表するという取り組みで 1999 年に始めました。それまでに学び、体験したことを総合的にまとめ、発表する機会ともなり、患者さんやご家族の心に対する感性を磨き、理解につなげることができます。テーマ、シナリオ作成、監督、演劇、音響、照明、ポスター作成など、すべてを学生の手作りで行っています。発表までは教員が関与しません。シナリオ作成にあたって「絶対に医療関係者に相談してはならない」というルールを決めています。そのため、学生自身が培ったケアマインド、患者さんの心をストレートに反映したシナリオができあがり、感動を生む発表につながっています。発表は 5 年次の 4 月に行われます。入院患者さんにも観衆に加わっていただくため、学生が病棟を回って発表会にお誘いしています。このような一つ一つのプロセスによって「刷り込み」が行われ、また、チームの力で一つのことを成し遂げる貴重な経験にもなっています。



## 平成 21 年度文部科学省大学教育学生支援推進事業【テーマ A】採択プログラム「プラグマティズム的臨床医育成プログラム」中間報告書



平成 21 年度文部科学省大学教育学生支援推進事業【テーマ A】に採択された本学取組「プラグマティズム的臨床医育成プログラム」における事業の中間報告を掲載しています。

発行年月：平成 23 年 3 月

## 第 42 回日本医学教育学会総会での発表内容

開催日時：2010 年 7 月 30 日（金）・31 日（土）

開催場所：都市センターホテル

テーマ：「社会と共に歩む医学・医療教育を求めて」

一般演題 口演 第一日目 7 月 30 日（金）

口演：入学者選抜・医学部定員増 16:08～17:12

### 「学生定員増による教育環境の変化と対応」

羽野 卓三、川邊 哲也 和歌山県立医科大学教育研究開発センター

#### 【目的】

本学は平成 20 年度に医学部学生定員が 60 名から 85 名に、平成 21 年には、95 名に増員された。これら増員による教育環境の改善および教育現場の状況を明らかにする。平成 20 年度は教員の増員は無く、教室、実習室なども従来の紀三井寺キャンパスのものを使用し、実習を中心にカリキュラムの改訂を行った。平成 21 年度は近隣の三葛キャンパスに教養教育を中心とした施設を建設し、カリキュラムについても改訂を行った。

#### 【方法】

1 年次の教育に携わった教員に、学生の態度（私語、集中力、欠席数、遅刻、中途退室、活気）の変化と授業・実習についての変更（工夫したか、形式の変更、内容の変更）について調査した。

#### 【成績】

「私語」については増加、やや増加したとするものが平成 20 年度は 34%であったが、平成 21 年度にはさらに増加した。「授業への集中」は平成 20 年度にはやや低下したとするものが 33%、変化なしが 67%であったが、平成 21 年度にはさらに増加した。「授業への集中」は平成 20 年度には、やや低下したとするものが 33%、変化なしが 67%であったが、平成 21 年度には低下したが増加した。「欠席」、「遅刻や途中退室」「教室の活気」は評価が分かれたが全体としては大きな変化がなかった。授業を工夫したかどうかについては人文系の教員と比較し、自然科学系の教員で形式、内容の変更をしたものが多かった。また、平成 20 年度は実習については自然科学系の実習では全てクラスを 2 分割し、課題を減らすなどの工夫をした。人文系の実習は以前から 2 分割しており大きな変化はなかった。平成 21 年度は自然科学の実習については、必須と選択に分け行うなどの工夫がみられた。学生から

の授業へのアンケートでは、自然科学系の教員は 90%で評価が高まったのに対して、人文系では 62%であった。

#### 【結論】

定員増に伴い学生の私語が増加し、授業への集中が低下したが、欠席や遅刻・中途退室については変化がなかった。授業や実習の形態、内容の変更をした教科では学生からの評価が高まった。

一般演題 口演 第二日目 7月31日(土)

口演：シミュレーション教育(4) 15:40~16:44

### 「医療安全推進を目的としたシミュレーション教育の構築」

羽野 卓三、川邊 哲也 和歌山県立医科大学教育研究開発センター

#### 【目的】

卒前・卒後教育においてシミュレーション教育の重要度は増加している。しかし、現時点の教育においては手技の習得を目標としたものが多い。本学では臨床技能研修センターの開設後、学生、医師、看護師、コメディカルの臨床技能とともに医療安全の推進、チーム医療教育の改善のためにシミュレーションを用いた教育方法を取り入れ行った。

#### 【方法】

医療安全推進室を含む学内の臨床技能ワーキンググループを立ち上げ、インシデントレポートの頻度の高いものを抽出し、中心静脈穿刺と輸液ポンプの操作を組み合わせたものをシミュレーション教育の課題とした。シナリオの作成については、院内規定に基づいた内容とし、院内で使用している物品、薬品をそのまま用いることとした。また、医療現場における処置と同様、医師と看護師の両者によるシナリオとした。

#### 【成績】

シミュレーション教育の手順としては1)シナリオに基づくDVDの作成、2) e-learningによる内容の確認と院内規定の確認、3) OSCEによる手技の確認とした。DVDは患者への事前説明、事前の処置、体位、消毒の範囲、清潔操作、エコーでの確認、穿刺方法、固定方法を含んだ内容とし、CVPと連結する輸液および輸液ポンプについての準備、輸液ポンプの操作方法と注意点、CVPラインとの接続方法についての解説も含めた。また、これらの手技は医師と看護師が協力して行うものとした。現在、学内の規定に基づく e-learningのコンテンツ作成と研修の運用を行う予定である。

#### 【結論】

DVD作成を医療安全推進室と協力して行うことで、単なる手技の研修のみならず医療安全の規定の見直し、院内の各病棟、各診療科において異なる手技の統一および規定の確認および手技の統一化に有効であった。

平成22年度事業実績

保健看護学部



## 開催した委員会の一覧

### 入試制度検討委員会

#### 第1回

開催日時：平成22年5月10日(月)

- 議 事： 1 平成23年度入試について  
2 平成24年度推薦及び一般入学試験について  
3 入学者受入方針（アドミッションポリシー）について  
4 来年度以降の3年次編入学試験について

#### 第2回

開催日時：平成22年5月24日(月)

- 議 事： 1 入学者受入方針（アドミッションポリシーについて）  
2 23年度一般入試後期日程における第一段階選抜の予告倍率について

#### 第3回

開催日時：平成22年7月7日(水)

- 議 事： 1 推薦入試における「1 高等学校」の考え方について

#### 第4回

開催日時：平成22年8月4日(水)

- 議 事： 1 不出願時等の入学検定料の返還について

#### 第5回

開催日時：平成23年3月12日(水)

- 議 事： 1 東北地方太平洋沖地震にかかる入試対応について

### あり方検討委員会

#### 第1回

開催日時：平成22年5月26日(水)

- 議 事： 1 博士課程について

#### 第2回

開催日時：平成22年7月5日(月)

- 議 事： 1 博士課程について  
2 養護教諭の教職課程について

#### 第3回

開催日時：平成22年11月17日(月)

- 議 事： 1 保健師助産師看護師学校養成所指定規則改正への対応について

#### 第4回

開催日時：平成23年2月18日

議 事：1 3年次編入、保健師選択制等について

### **FD委員会**

#### 第1回

開催日時：平成22年4月2日（金）

議 事：1 平成22年度計画について

#### 第2回

開催日時：平成22年5月12日（水）

議 事：1 平成22年度の計画について（教員からのアンケートをもとに）

#### 第3回

開催日時：平成22年6月2日（水）

議 事：1 特別講義について  
2 公開授業について

#### 第4回

開催日時：平成22年9月22日（水）

議 事：1 平成22年度後期公開授業について  
2 特別講演について

#### 第5回

開催日時：平成23年3月23日（水）

議 事：1 平成22年度のまとめと平成23年度に向けて

#### FD委員会名簿

委員長 一 山田和子

副委員長 一 柳川敏彦

委員 一 内海みよ子、鹿村真理子、池田 敬子、岡本 光代、佐々木真次

## 開催したFDの一覧

### 第1回

開催日時：平成22年4月7日（水）  
演題：和歌山県立医科大学保健看護学会について  
演者：保健看護学部 教授 有田 幹雄  
参加者数：教員約30人

### 第2回

開催日時：平成22年6月2日（水）  
演題1：看護における文化的視点  
演者：保健看護学部 教授 鹿村 真理子  
演題2：和歌山県立医科大学附属病院看護部研修会  
「フォーカスチャータニング研修会」報告  
演者：保健看護学部 助教 山口昌子、森田望  
参加者数：教員約30人

### 第3回

開催日時：平成22年7月7日（水）  
演題1：長期療養児と家族のライフイベントに着目した  
包括的サポートシステムの確立  
演者：保健看護学部 講師 前馬理恵  
演題2：大腸がん患者のがんサバイバルシップを高める  
セルフヘルプグループプログラムの開発  
演者：保健看護学部 講師 辻 あさみ  
参加者数：教員約30人

### 第4回

開催日時：平成22年9月1日（水）  
演題：過疎高齢集落における高齢者の孤立や  
孤独死の防止に有効な介入モデルの構築  
演者：保健看護学部 教授 水主千鶴子  
演題2：地域に暮らす高齢女性のスピリチュアリティ  
—被爆による死別体験、信仰、生活の楽しみとスピリチュアリティの関係—  
演者：保健看護学部 助教 山口昌子  
参加者数：教員約30人

### 第5回

開催日時：平成22年10月1日（金）  
演題1：新規ウイルス不活性化化合物の開発とその応用を目指して  
演者：保健看護学部 講師 池田敬子

演 題 2 : 産褥早期の女性における冷えの自覚と下肢表面温度の実態  
演 者 : 保健看護学部 講師 辻 久美子  
参加者数 : 教員約 30 人

#### 第 6 回

開催日時 : 平成 22 年 11 月 10 日 (水)  
演 題 1 : 脳の情報処理機能について  
演 者 : 保健看護学部 教授 志波 充  
演 題 2 : 保健看護実習 D における臨床と大学の連携  
演 者 : 保健看護学部 助教 森田 望  
参加者数 : 教員約 30 人

#### 第 7 回

開催日時 : 平成 22 年 12 月 1 日 (水)  
演 題 1 : 呼吸器疾患患者の増悪および QOL 低下に関連する気象要因  
演 者 : 保健看護学部 教授 鈴木 幸子  
演 題 2 : 大学教員としての半年を振り返って  
演 者 : 保健看護学部 助教 中井 祥子  
参加者数 : 教員約 30 人

#### 第 8 回

開催日時 : 平成 23 年 1 月 5 日 (水)  
演 題 1 : 山東大学訪問および学術講演報告  
演 者 : 保健看護学部 講師 服部 園美  
演 題 2 : 和歌山県支部における思春期支援事業報告～高校生を対象として～  
演 者 : 保健看護学部 助教 有馬 美保  
参加者数 : 教員約 30 人

#### 第 9 回

開催日時 : 平成 22 年 2 月 2 日 (水)  
演 題 1 : 子どもの脳を守る  
演 者 : 保健看護学部 教授 上松 右二  
演 題 2 : 東北地方 A 市在住中高年女性の生活習慣と生活習慣病リスクの実態  
演 者 : 保健看護学部 助教 宮下 ルリ子  
参加者数 : 教員約 30 人

#### 第 10 回

開催日時 : 平成 23 年 3 月 9 日 (水)  
演 題 1 : NICU の特色と新人教育の課題  
演 者 : 保健看護学部 助教 中原 美栄

演 題 2 : 小児看護と実習指導

演 者 : 保健看護学部 助教 北野 景子

参加者数 : 教員約 30 人

## 発 行 し た 冊 子

保健看護学部では、平成 22 年度に以下の 1 冊の冊子を発行しました。

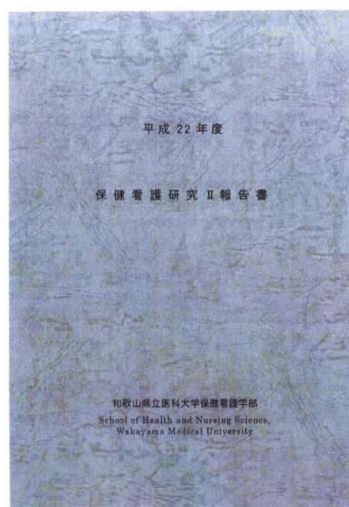
### 平成 22 年度保健看護研究Ⅱ報告書

平成 22 年度 4 年生による保健看護研究Ⅱの報告書（18 編）です。

- 発行日 平成 23 年 3 月
- 編 集 和歌山県立医科大学保健看護学部
- 発行者 和歌山県立医科大学保健看護学部

保健看護研究Ⅱ報告書は、平成 16 年の 4 年制大学への移行以来、毎年刊行されています。

平成 22 年報告書は、保健看護学部第 4 期生がほぼ 1 年間かけて取り組んだ報告書・論文を取りまとめたものであります。研究の過程において、自ら感じた疑問や問題をこれまで学んだ知識を活かして論理的な思考で解決方法を考えること、あるいは自ら主体的に取り組んでいることがわかる報告書です。



## 取り組んだ事業

### 第2回和歌山県立医科大学保健看護学会

和歌山県立医科大学保健看護学部設立の理念を継承し、保健看護学の進歩発展と卒業生および教職員など相互の研鑽・親睦をはかり、地域の総合的な保健医療の推進、向上のために貢献することを目的として、和歌山県立医科大学保健看護学会を設立いたしました。第2回和歌山県立医科大学保健看護学会は第1回と同じ「連携・研鑽・飛躍」を学会のテーマとして開催しました。

1) 日 時：平成22年8月7日（土）

2) 会 場：保健看護学部大講義室

3) 日程表：9:50～開会挨拶

10:00～10:50 大会長講演

テーマ：医療と看護の関係：臨床・教育・研究のあり方

大会長：柳川敏彦（和歌山県立医科大学保健看護学部）

座 長：有田幹雄（和歌山県立医科大学保健看護学部）

11:00～11:50 一般演題発表

12:30～12:50 総会

13:00～13:50 一般演題発表

14:00～16:00 シンポジウム

テーマ：保健看護研究への誘い

シンポジスト

量的研究のプロセス

森岡郁晴（和歌山県立医科大学保健看護学部）

質的量的研究の多様性と課題・現象学的研究を中心に

西村ユミ（大阪大学コミュニケーションデザインセンター）

研究論文の吟味の仕方

田中結華（大阪府立大学看護部）

座 長：山田和子（和歌山県立医科大学保健看護学部）

16:00 閉会

17:00～18:00 懇親会

# 保健看護学会


8.7.  
月 日 土

連携  
研鑽  
飛躍

看護を科学する

71  
元預金(1日1万円)

723  
参加費(税込)



Program

9:00 -	受付	
9:50 -	開会挨拶	(大講義室)
10:00 - 10:50	会長講演	(大講義室)
	前 長 有田幹雄(学長理事)	
	講演者 柳川雄彦(医療と看護の関係、臨床・教育・研究のあり方)	
11:00 - 11:50	一般演題	(大講義室、第1講義室、第2講義室) (和歌山県立医科大学保健看護学部)
	昼 食	
12:30 - 12:50	総 会	(大講義室)
13:00 - 13:50	一般演題	(大講義室、第1講義室予定)
14:00 - 16:00	シンポジウム	「保健看護研究への誘い」(大講義室)
	前 長 山田和子(和歌山県立医科大学保健看護学部長)	
	シンポジスト1「質的研究のプロセス」森田郁晴(和歌山県立医科大学保健看護学部)	
	シンポジスト2「質的量的研究の多様性と課題・現象学的アプローチを中心に」	
	西村コミ(大阪大学)2100-10101-0101	
	シンポジスト3「研究論文の吟味のしかた」田中結華(大阪府立大学看護学部)	
16:00	閉 会	終了後、同席会を予定しています。
17:00 - 18:00	懇 親 会	(学生ホール)

和歌山県立医科大学 WAKAYAMA MEDICAL UNIVERSITY  
保健看護学会 WAKAYAMA NURSING MEDICAL SOCIETY  
和歌山県和歌山市二番町 1-1-1 TEL:073-440-8700 FAX:073-440-8722  
E-Mail: [kanogog@wakayama-med.ac.jp](mailto:kanogog@wakayama-med.ac.jp)

<http://www.wakayama-med.ac.jp/usarmenu/kangog.html>

第2回和歌山県立医科大学保健看護学会ポスター

## 平成22年度学生自主カリキュラムの取組

### 1. 島根県の離島での看護体験

佐藤 公紀（和歌山県立医科大学保健看護学部1年）  
鈴木 弘貴（和歌山県立医科大学保健看護学部1年）  
長島 真純（和歌山県立医科大学保健看護学部1年）  
高居 弥生（和歌山県立医科大学保健看護学部1年）  
野口 薫（和歌山県立医科大学保健看護学部1年）

島根県隠岐諸島・島前地区の隠岐島前病院に行き、看護体験を2日間行った。  
離島で活躍する医療従事者から話を聞くことにより、地域医療のあり方について、多くのことを学ぶことができた。

### 2. 「音楽がもたらす効果」～医療現場において～

井上 諒子（和歌山県立医科大学保健看護学部1年）  
嶋田 安那（和歌山県立医科大学保健看護学部1年）  
戸田 沙也加（和歌山県立医科大学保健看護学部1年）  
平岡 阿佑美（和歌山県立医科大学保健看護学部1年）  
和田 陽加（和歌山県立医科大学保健看護学部1年）

1988年以来、200回を超えるロビーコンサートを開催されている京都府宇治市の第2岡本総合病院を訪問した。医療現場における音楽がもたらす効果について、職員の方から直接話を聞くことができ、理解を深めることができた。

### 3. 三葛の子どもたちを対象とした健康教室の実施について

乾名 菜子（和歌山県立医科大学保健看護学部2年）  
成江 美咲（和歌山県立医科大学保健看護学部2年）  
西出 美早紀（和歌山県立医科大学保健看護学部2年）

和歌山市三葛地区の小学生を対象に、健康に対する興味や関心を高めるため、食事作りやレクレーションを行った。子ども達との交流を通じ、楽しみながら、バランスの良い食事作りや運動の大切さを伝えることができた。

### 4. 照らす 育む 支えあう 社会

～これからの高齢福祉社会を見据えて～

小川 裕子（和歌山県立医科大学保健看護学部2年）  
谷口 舞（和歌山県立医科大学保健看護学部2年）  
永井 友唯（和歌山県立医科大学保健看護学部2年）  
前田 絵理（和歌山県立医科大学保健看護学部2年）



前地 紗里（和歌山県立医科大学保健看護学部2年）

スウェーデンの社会福祉のあり方を取り入れた施設、オリンピア神戸を訪れた。デイサービス見学、グループホーム見学を通じ、パーソン・センタード・ケアの理念に基づき、高齢者の方に質の高いケアを提供できることを学んだ。

## 5. 日本におけるNurse Practitionerの現状

木下 晃輔（和歌山県立医科大学保健看護学部2年）

小名 徹（和歌山県立医科大学保健看護学部2年）

ナースプラクティショナー養成コースがある大分県立看護科学大学を訪問した。担当教授及び学生にインタビューを行い、日本におけるナースプラクティショナーの現状を学ぶことができた。

## 6. 原爆被爆者の医療を考える

稲垣 あずな（和歌山県立医科大学保健看護学部2年）

状家 莉保（和歌山県立医科大学保健看護学部2年）

永久 綾子（和歌山県立医科大学保健看護学部2年）

成田瑛実加（和歌山県立医科大学保健看護学部2年）

原爆被爆者の医療について考えるため、広島での平和式典への参列、広島平和記念資料館及び広島赤十字・原爆病院の見学を行った。被爆者の方から、直接お話を伺うことができ、被爆者医療について理解を深めることができた。

## 7. マクドナルドハウスに行って

高橋 真麻（和歌山県立医科大学保健看護学部3年）

小林 沙希（和歌山県立医科大学保健看護学部3年）

岡本 望希（和歌山県立医科大学保健看護学部3年）

吹田市にあるマクドナルドハウスを訪問し、施設見学を行った。施設の方に話を聞きことにより、宿泊施設というだけでなく、同じ悩みや不安を抱える家族同士が支え合う場であること等、マクドナルドハウスの持つ役割について学ぶことができた。

## 8. 和歌山県の飛び地における医療体制のありかたについて

中原 梓（和歌山県立医科大学保健看護学部3年）

西本 佑美（和歌山県立医科大学保健看護学部3年）

日本で唯一の飛び地である北山村を訪問し、医療体制の調査を行った。役場の職員の方や、診療所の医師の方へのインタビューを通じ、飛び地における医療体制の現状について学ぶことができた。

## **9. 成人における起立性血圧変動と生活習慣の関係について**

井戸上 綾香（和歌山県立医科大学保健看護学部 4年）

岡田 夏季（和歌山県立医科大学保健看護学部 4年）

影山 渚（和歌山県立医科大学保健看護学部 4年）

鷺本 紗季（和歌山県立医科大学保健看護学部 4年）

成人における起立性血圧変動と生活習慣の関係について、学生約40名を対象として、アンケート調査やデータ収集を行い、調査結果について、第21回日本医学看護学教育学会学術学会で発表した。

臨床技能研修センター

## 和歌山県立医科大学臨床技能研修センター設置及び管理・運営規程

制 定 平成18年11月14日和医大規程第 313 号

最終改正 平成 22 年 4 月 1 日和医大規程第 14 号

### (趣旨)

第 1 条 この規程は、和歌山県立医科大学内に設置する臨床技能研修センターの使用に関して、必要な事項を定めるもので、施設・備品の円滑かつ良好な管理・運営を図ることにある。

### (設置)

第 2 条 和歌山県立医科大学内に臨床技能研修センターを設置する。

2 臨床技能研修センターには、次の研修室を設置する。

- (1) 基本的手技研修室
- (2) 外科的手技研修室
- (3) B L S ・ A C L S 研修室
- (4) 模擬病室

### (目的)

第 3 条 臨床技能研修センターは、和歌山県立医科大学の学生、同附属病院の研修医をはじめとする教職員、さらには地域医療支援のため、地域医療機関等の医療従事者の臨床技能の習得・向上及び安全管理の確立を図ることを目的に設置するものである。

### (審議)

第 4 条 臨床技能研修センターの管理・運営に関する重要事項については、教育研究開発センターの臨床技能教育部会で審議する。

### (管理者の設置)

第 5 条 臨床技能研修センターの管理・運営及び教育支援を行う管理者をおく。

- 2 管理者は、教育研究開発センター長をもって充てる。
- 3 臨床技能研修センターに関する事務は、教育研究開発センターが所管する。

### (管理者の業務)

第 6 条 臨床技能研修センターの管理者の業務は、次のとおりとする。

- (1) 臨床技能研修センターの使用の管理
- (2) 臨床技能研修センターの施設・備品の管理
- (3) 使用者への技術指導
- (4) 使用対象者への広報活動
- (5) 教育研究開発センター臨床技能教育部会への管理・運営報告
- (6) その他、臨床技能研修センターの管理・運営に必要な業務

(使用対象者)

第7条 臨床技能研修センターを使用できる者は、次のとおりとする。

- (1) 和歌山県立医科大学に在籍する学生、大学院生、研究生、研修生、大学院研究生及び博士研究員
- (2) 和歌山県立医科大学及び同附属病院に所属する研修医及び教職員
- (3) 教育研究開発センター、卒後臨床研修センター等、学内組織が主催または共催する講習会に参加する者
- (4) 地域医療機関の医療従事者
- (5) その他、管理者が適当と認めた者

(使用内容)

第8条 臨床技能研修センターの使用内容は、次のとおりとする。

- (1) 学生対象の臨床実習準備教育
- (2) 学生対象の臨床実習中の臨床技能教育
- (3) 研修医対象の卒後研修中の臨床技能研修
- (4) 院内・外の医療従事者等対象の臨床技能講習
- (5) 学生、研修医、医師、看護師、救命救急士、市民等対象のBLS・ACLS講習
- (6) 院内の研修医及び教職員対象の安全管理教育
- (7) 第1号から第3号に係る予習・復習等の自己訓練
- (8) その他、管理者が必要と認めた場合

(使用日時)

第9条 臨床技能研修センターを使用できる日は、土曜日、日曜日、国民の祝日に関する法律に定める休日、年末年始（12月29日から翌年1月3日まで）及び本学創立記念日を除く日とする。ただし、管理者が特に必要と認めるときは、この限りではない。

2 臨床技能研修センターを使用できる時間は、原則として午前9時から午後5時までとする。ただし、管理者が特に必要と認めるときは、この限りではない。

(使用申込)

第10条 臨床技能研修センターを使用するときには、使用予定日の1か月前から前日までに、臨床技能研修センター使用承認申請書（別紙様式）を管理者に提出し、承認を得なければならない。

2 使用の承認を受けた者が、承認された使用日時等を変更するときには、事前に管理者の承認を得なければならない。

3 使用の承認を受けた者が、使用を中止しようとするときは、速やかに管理者に届け出なければならない。

(使用承認)

第11条 使用の承認は原則として予約先着順とする。ただし、第8条第1号から第6号までに規定するものについては、優先して使用させることができる。

2 予約の重複については、教育研究開発センターにて調整を実施し、管理者が決定を行う。

(使用承認の取り消し等)

第12条 使用の承認を受けた者が、次の各号のいずれかに該当するときは、使用承認を取り消すことがある。

- (1) 使用承認の目的に反したとき。
- (2) 目的以外の使用又は又貸しをしたとき。
- (3) 本規程の取り決めに違反したとき。
- (4) 管理・運営上の支障が生じたとき。

2 大学において実習の実施等緊急に必要なが生じたときは、使用承認の取り消し、又は使用の条件変更を行うことがある。

(使用方法)

第13条 臨床技能研修センターの使用にあたって、教育研究開発センターの事務取扱時間内のときは、使用時間直前に、同センター係員に身分証明書を提示し、使用承認の確認を受けたうえで使用すること。

2 臨床技能研修センターの使用にあたって、教育研究開発センターの事務取扱時間外の場合は、事務取扱時間内に、同センター係員に身分証明書を提示し、使用承認の確認を受けたうえで、鍵（カード）の貸し出しを受け、使用者が解錠すること。

3 事務取扱時間外に臨床技能研修センターを使用した者は、使用を終え次第、戸締まりの確認をしたうえで、鍵を閉めて、速やかに鍵（カード）を教育研究開発センターに返却するものとする。

(自己責任)

第14条 臨床技能研修センターの使用にあたっては、実習指導教員の指導のもとに行うよう努めるものとする。

2 臨床技能研修センターの備品を使用する者は、事前に使用方法を理解・習熟していなければならない。なお、使用方法については、教育研究開発センターが適宜、講習会、ビデオ、説明書などを用いて研修を実施するものとする。

3 臨床技能研修センターの使用者に、万が一事故が生じたときの責任は、使用者本人が負うものとする。

(遵守事項)

第15条 臨床技能研修センターの使用者は、次の事項を遵守するとともに、管理者及び教育研究開発センター係員の指示に従わなければならない。

- (1) 常に良識ある行動をとり、秩序・風紀の維持及び設備・備品の保全に努めること。
- (2) 使用目的以外の用途には使用しないこと。
- (3) 設備・備品を断りなく改変しないこと。
- (4) 設備・備品を断りなく室外に移動しないこと。

- (5) 常に整理整頓に努めること。
- (6) 使用を終了したときは、設備・備品を使用前の状態に戻すこと。
- (7) 使用済みの注射針等の医療系廃棄物は、所定の容器に廃棄すること。
- (8) 設備・備品を損傷、汚損、紛失しないこと。
- (9) ごみは各自持ち帰ること。
- (10) 飲食・喫煙をしないこと。
- (11) 火気を使用しないこと。
- (12) 使用時間を厳守すること。
- (13) 使用を終えたときは、消灯、空調機器の停止、窓の戸締まりを行うこと。
- (14) 金銭等の貴重品は各自が責任をもって管理すること。
- (15) 設備・備品の取扱いは、各自が責任をもって行うこと。

(備品の使用と報告)

第16条 臨床技能研修センターの備品のうち、保管している消耗品等の使用を予定している者は、使用承認申請書にその旨を記載し、承認を得たうえで、教育研究開発センターの事務取扱時間中に同センター係員に申し出て、立ち会いのうえ、借り受けるものとする。また、使用後も同センター係員立ち会いのうえ、消耗品等の使用済数及び残数を確認のうえで、使用済分は破棄し、未使用分を返却するものとする。なお、使用終了が教育研究開発センターの事務取扱時間外のときは、日を改めて、事務取扱時間中に同センター係員に残数の確認を受け、未使用分を返却するものとする。

- 2 備品のうち、注射針等については、原則として教育研究開発センターの事務取扱時間外には、使用することができない。ただし、実習指導教員の指導のもとで使用するときは、この限りではない。

(貸し出し)

第17条 臨床技能研修センター外で備品の使用を希望する者は、事前に教育研究開発センターに申し出て、所定の手続きを行うものとする。ただし、同センター外で備品を使用できるのは、教育研究開発センター、卒後臨床研修センター等、学内組織が主催または共催する講習会等を実施するときに限る。

(費用負担)

第18条 臨床技能研修センターにおいて使用した消耗品及び施設・備品の運営に伴う費用負担は別途定めるものとする。

(損傷等の措置)

第19条 臨床技能研修センターの利用者が故意又は重大な過失によって、施設又は設備・備品等を損傷又は紛失したときは、直ちに教育研究開発センターに届け出て、その指示を受けなければならない。また、これによって生じた損害又はその原状回復に必要な経費を弁償しなければならない。

- 2 臨床技能研修センターの利用者は、使用した備品等に不具合があったときは、直ちに

教育研究開発センターに届け出るものとする。

(雑則)

第20条 この規程に定めるもののほか、管理・運営に関して必要な事項は、管理者が別に定めるものとする。

附 則

この規程は、平成18年11月14日から施行する。

附 則

この規程は、平成22年4月1日から施行する。

## 臨床技能研修センターの利用方法

原則として月曜～金曜（祝日を除く）の午前9時から午後5時にご利用いただけます。

（上記以外でご利用される場合は、教育研究開発センターにご連絡ください。）

### <予約方法>

使用予定日の1か月前から前日までに、使用を申請してください。ご使用には管理者の承認が必要です。ご予約は、

- (1) 使用承認申請書を教育研究開発センターへ提出、もしくはFAXで送信
- (2) オンライン上での申し込み（臨床技能研修センターホームページ内、予約申請フォームからの申し込み）が出来ます。

The image shows a screenshot of the 'Clinical Skills Training Center Reservation Form' (臨床技能研修センター利用予約フォーム) on the website of Wakayama Medical University. The form is titled '臨床技能研修センター利用予約フォーム' and includes a navigation menu with options like '臨床技能研修センターの紹介', 'シミュレーター教育', '臨床手技の解説', '臨床技能研修センターの利用予約', and 'リンク'. The main content area contains the following fields and instructions:

- Instruction: このフォームに必要事項を記入し、[確認]ボタンを押していただくこと、自動的に臨床技能研修センター利用について申請手続きできます。\*
- Field: 使用目的名 (必須入力項目)
- Field: 使用目的 (BLS・ACLS, 基本的手技研修, 外科的手技研修(1-2), 機模研修)
- Field: 使用物品名 (スキルラボ用品等)
- Field: 物品貸出の都合の 使用開始 (Date and Time)
- Field: 使用期間 (Date and Time)
- Field: 利用者数 (学内者, 学外者)
- Field: 申請者(使用責任者) 氏名
- Field: 連絡先
- Field: 備考
- Buttons: 確認, キャンセル

臨床技能研修センターHP 利用予約フォーム画像



臨床技能研修センター使用承認申請書

年 月 日

和歌山県立医科大学臨床技能研修センター管理者  
教育研究開発センター長 様

所属部署 または 学年  
申請者（使用責任者）氏名  
連絡先（電話番号）

以下のとおり、使用の承認を申請いたします。

1. 使用の目的

2. 使用室名 使用を希望する部屋名にチェック☑をして下さい。

BLS・ACLS 研修室① BLS・ACLS 研修室②

基本的手技研修室 外科的手技研修室 模擬病室

3. 使用物品

4. 期間 年 月 日 時 分 から 年 月 日 時 分まで

5. 利用者数：約 人

利用者の内訳

団体名	学外者	学内者
	人	人
	人	人
	人	人

6. 使用する消耗品

物品名	数量
	個
	個
	個

7. 物品を施設外に持ち出して使用する場合

持ち出し場所	
返却責任者	

臨床技能研修センター使用承認申請書

<予約状況の確認>

予約日程表 (<http://www.wakayama-med.ac.jp/clinical/schedule/index.php>) で予約状況を確認してから申請してください。

申請後2～3日で承認作業を行います。予約が確定したことを予約日程表で確認してください（原則として予約先着順となります）。

## センターの備品一覧

品名	個数	用途
ハートシム	1	救命処置訓練(気道確保、バックバルブマスク換気、除細動など)
レサシアン(全身タイプ)	1	BLS 訓練、AED 実技訓練
大型静脈穿刺パッド	30	静脈穿刺トレーニング
胸部ドレーンシミュレーター	1	胸腔ドレナージ手技練習
手背静脈注射シミュレーター	1	静脈穿刺手技練習
小児の手背静脈穿刺シミュレーター	1	乳幼児への静脈注射・採血、点滴静注手技練習
動脈穿刺シミュレーター	1	動脈穿刺・動脈血採取トレーニング
腰椎穿刺シミュレーター	1	腰椎穿刺、硬膜外麻酔、腰椎麻酔
CVC 穿刺シミュレーター	1	中心静脈穿刺手技練習
新型採血静脈穿刺シミュレーター “シンジョー”	4	採血手技練習、静脈内注射
神経血管腕モデル	1	
皮内注射シミュレーター	1	皮内注射手技練習
外科手洗い台	2	手洗いトレーニング(2人用)
グリッターバグセット	4	手洗いトレーニング
腹腔鏡	1	腹腔鏡手技トレーニング
MATT トレーナー	1	腹腔鏡手技トレーニング
内視鏡	1	内視鏡手技トレーニング
マーゲンシミュレーター	2	内視鏡手技トレーニング
眼底診察	5	眼の診察練習
耳の診察	5	耳の診察練習

品名	個数	用途
超音波トレーニングシミュレーター (UltraSim)	1	エコー診断のトレーニング
イチロー&ラング	1	心音・肺音聴診練習
心臓病診察(イチロー)	1	心音聴診練習
Mr.ラング(スピーカー有)	1	肺音聴診練習
Mr.ラング(スピーカー無)	1	肺音聴診練習
直腸診シミュレーター	4	直腸診トレーニング
男性導尿法シミュレーター	3	男性導尿法手技練習
ナーシングアン	5	患者ケアトレーニング
救急ケアシミュレーター(ECS)	1	患者ケアトレーニング
除細動機	1	
人工呼吸器(VELA)	1	救急ケアシミュレーターに接続可能
生体情報モニタ	1	救急ケアシミュレーターに接続可能
輸液ポンプ	1	点滴静脈内注射手技練習
シリンジポンプ	1	点滴静脈内注射手技練習
レサシアン(半身タイプ)	9	BLS 訓練、AED 実技訓練
リトルジュニア	7	BLS 訓練、AED 実技訓練
ベビーアン	7	BLS 訓練、AED 実技訓練
Ambubaby	1	BLS 訓練
チョーキングチャーリー	2	ハイムリッヒ法訓練
ポケットマスク	10	人工呼吸訓練
AED トレーナー	AED 実技訓練(レールダル:7、メドトロニック:5、日本光電:5)	
エアウェイトトレーニングシステム	2	気管内挿管手技練習
新生児気道管理トレーナー	3	新生児の気道管理トレーニング
Neonatal Resuscitation Baby	3	新生児蘇生トレーニング

品名	個数	用途
新生児挿管モデル	1	気管内挿管手技練習
気管切開トレーナー	1	気管切開手技練習
バックバルブマスク		成人用:3、小児用:2、乳児用:2新生児用:3
男性骨盤	4	直腸診等練習
女性骨盤	3	女性骨盤部内診練習
前立腺触診	1	前立腺触診練習
前立腺触診シミュレーターB型	4	前立腺触診練習
乳房検診	3	乳房の触診練習
乳癌検診	4	乳癌触診練習
口腔ケアモデル“セイケツくん”	5	口腔内清潔手技練習
褥創ケアモデル	1	
吸引シミュレーター“Qちゃん”	2	吸引手技練習
吸引モデルⅡ型	2	吸引手技練習
携帯用小型吸引器	2	吸引手技練習
大型吸引機	2	吸引手技練習



利 用 実 績

使用期間	使用団体名	使用の目的	使用物品	使用者数	
				使用の内訳 学内	使用の内訳 学外
4月6日 16時～8日 18時	看護部管理室	新規採用職員研修	レサシアン6体、AEDトレーナー6台、マット18枚、外科手洗台	70	4
4月9日 9時～12時	卒後臨床研修センター	新規採用研修医オリエンテーション	レサシアン6体	60	0
4月14日 13時～16時	教育研究開発センター	和歌山SPの会(模擬患者養成の会)		7	10
4月20日 16時～18時	内科学第二教室	研修医の指導	内視鏡シミュレーター	6	0
4月20日 16時～22日 18時30分	看護部管理室	新規採用職員研修	ナーシングアン3体、採血シミュレーター“シンジョー”2台	80	0
4月23日 9時～28日 16時	和歌山ACLS研究会	BLS研修	レサシアン2体、ペリアン2体	5	15
4月26日 13時～18時	看護部管理室	新規採用職員研修	ナーシングアン3体、採血シミュレーター“シンジョー”2台	40	0
4月28日 13時～17時	助産学専攻科	助産診断学 I 講義『超音波診断』	エコーシミュレーター	13	0
4月28日 13時～18時	看護部管理室	新規採用職員研修	ナーシングアン3体、採血シミュレーター“シンジョー”2台	40	0
4月28日 14時～16時	卒後臨床研修センター	研修	胸腔ドレーンシミュレーター	2	0
4月28日 15時～16時	救急集中治療部	GIFの研修	内視鏡シミュレーター	4	0
4月28日 15時～16時30分	卒後臨床研修センター	内視鏡と腹腔鏡の練習	腹腔鏡シミュレーター、内視鏡シミュレーター	4	0
				331人	29人
				月間総件数・総人数	

使用期間	使用団体名	使用の目的	使用物品	使用者数	
				使用の内訳 学内	使用の内訳 学外
5月1日 17時～22時	卒後臨床研修センター	勉強会	胸腔ドレーンシミュレーター	5	0
5月6日 12時～13時	卒後臨床研修センター	自習	胸腔ドレーンシミュレーター	2	0
5月7日 18時～22時	卒後臨床研修センター	勉強会	胸腔ドレーンシミュレーター	15	0
5月12日 13時～16時	教育研究開発センター	和歌山SPの会(模擬患者養成の会)		7	10
5月12日 17時～19時	医学部学生	BLSの講習会	レサシアン3体、AEDトレーナー3台、チョーキングチャャーリ-2体	25	0
5月14日 17時～19時	医学部学生	BLSの講習会	レサシアン3体、AEDトレーナー3台、チョーキングチャャーリ-2体	25	0
5月14日 9時～18日 10時	保健看護学部	講義	グリッターバグ4台	80	0
5月15日 17時～21時	外科学第二教室	内視鏡・腹腔鏡トレーニング	内視鏡シミュレーター、腹腔鏡シミュレーター、上部内視鏡、腹腔鏡	10	0
5月19日 17時～19時	医学部学生	BLSの講習会	レサシアン3体、AEDトレーナー3台、チョーキングチャャーリ-2体	25	0
5月21日 17時～19時	卒後臨床研修センター	勉強会		15	0
5月26日 13時～6月1日 9時	卒後臨床研修センター	採血トレーニング	採血シミュレーター“シンジョー”	60	0
5月27日 12時～18時	助産学専攻科	助産診断学 I 講義『新生児蘇生』	新生児蘇生人形3体、吸引器2台	14	0
5月27日 16時～17時	卒後臨床研修センター	手技練習	内視鏡シミュレーター	1	0
5月28日 9時～31日 12時	救急集中治療部	研修	ハードシム、気道管理トレーナー、エアウェイトレーニングシステム	1	10
5月28日 12時～13時	卒後臨床研修センター	内視鏡手技の練習	内視鏡シミュレーター	1	0
5月28日 16時～6月1日 17時	卒後臨床研修センター	手技練習	CVC穿刺シミュレーター	2	0
5月28日 17時～21時	卒後臨床研修センター	勉強会	腰椎穿刺シミュレーター	15	0
5月29日 12時～30日 18時	和歌山IJLS研究会	第4回和歌山IJLS開催	レサシアン6体、バックバルブマスク3個	10	30
				313人	50人
				月間総件数・総人数	

使用期間	使用団体名	使用の目的	使用物品	使用者数	
				使用者の内訳 学内	学外
6月1日 15時～16時	卒後臨床研修センター	手技練習	内視鏡シミュレーター	1	0
6月2日 12時～17時	外科学専攻教室	技術練習	内視鏡シミュレーター	1	0
6月2日 12時30分～17時	助産学第二教室	助産診断学Ⅱ講義		14	0
6月5日 9時～18時	外科学第二教室	内視鏡トレーニング	内視鏡シミュレーター	3	0
6月7日 17時～9日 17時	救急集中治療部	BLS講義	レサシアン3体、バックバルブマスク3個	1	30
6月7日 14時～17時	内科学第二教室	学生指導	内視鏡シミュレーター	4	0
6月8日 14時～14日 17時	麻酔科学教室	学習	スキルス・ラボDVDシリーズ『CVC穿刺』	1	0
6月8日 15時～16時	卒後臨床研修センター	手技練習	内視鏡シミュレーター	2	0
6月9日 15時30分～10日 10時	内科学第一教室	教育・練習	エアウェイトレーニングシステム、気管挿管セット	3	0
6月9日 17時～19時	医学部学生	わりんぎ(和医大臨床技能)クラブ	心音聴診シミュレーター“イチロー”	25	0
6月10日 15時～16時30分	卒後臨床研修センター	手技練習	内視鏡シミュレーター	2	0
6月10日 16時～22時	和歌山市医師会内科部会	和歌山市医師会内科部会および小学校PTA に対するBLS講習会	レサシアン6体、AEDトレーナー6台、バックバルブマスク3個	5	15
6月16日 9時～17日 17時	心肺蘇生法普及活動支援協議会	AED講習	レサシアン3体、AEDトレーナー3台	3	10
6月16日 15時～17時	救急集中治療部	内視鏡手技向上のため	内視鏡シミュレーター	2	0
6月18日 18時～21時30分	内科学第二教室	勉強会	CVC穿刺シミュレーター	15	0
6月21日 12時～16時	卒後臨床研修センター	勉強会	心音聴診シミュレーター“イチロー”、肺音聴診シミュレーター“Mr. Lung”	70	10
6月24日 16時～16時30分	卒後臨床研修センター	手技練習	内視鏡シミュレーター	1	0
6月25日 14時～17時30分	看護部管理室	看護職研修	ECS、人工呼吸器、生体情報モニタ、支柱台	50	1
6月27日 9時～17時	外科学第二教室	手技練習	内視鏡シミュレーター	1	0
6月29日 14時30分～15時30分	卒後臨床研修センター	手技練習	内視鏡シミュレーター	2	0
6月30日 17時～20時	卒後臨床研修センター	研修打ち合わせ	CVC穿刺シミュレーター	5	0
				211人	66人
				277人	
使用期間	使用団体名	使用の目的	使用物品	使用者数	
7月11日 10時30分～12時	産婦人科	助産学生講義	超音波シミュレーター	11	0
7月11日 12時～8日 17時	卒後臨床研修センター	自己学習	スキルス・ラボDVDシリーズ『呼吸音』『静脈採血』	1	0
7月2日 18時～21時	卒後臨床研修センター	勉強会	CVC穿刺シミュレーター	15	0
7月5日 14時～17時	内科学第二教室	研修医の指導	内視鏡シミュレーター、上部内視鏡、マーゲンシミュレーター	6	0
7月5日 16時～8日 10時	卒後臨床研修センター	皮膚縫合の練習	縫合用模擬皮膚、持針器、はさみ	5	0
7月7日 17時～19時	医学部学生	わりんぎ(和医大臨床技能)クラブ	心音聴診シミュレーター“イチロー”	25	0
7月8日 9時～17時	企画課	観光医学講座 認定講習会	レサシアン6体、チャージャーリリー2体	2	27
7月8日 14時～17時	卒後臨床研修センター	手技練習	内視鏡シミュレーター	4	0
7月9日 12時～8月9日 17時	卒後臨床研修センター	皮膚縫合の練習	縫合用模擬皮膚、持針器、はさみ	1	0
7月12日 13時～17時	看護部管理室	シミュレーション研修デモ	救急ケアシミュレーター、輸液ポンプ、シリンジポンプ、生体情報モニタ	10	1
7月13日 17時30分～21時	附属病院10階東病棟	勉強会	レサシアン、ナーシングアン、バックバルブマスク	5	0
7月16日 9時～20日 17時	救急集中治療部	BLS研修	ハートシム	2	10
				211人	12

使用期間	使用団体名	使用の目的	使用物品	使用者数		
				使用者の内訳 学内	学外	
計	計	計	計	計	計	
7月16日 16時～20時 17時30分	総務課	コスモパーク加太活動訓練	レサシアン(全身タイプ)	2	10	12
7月17日 13時～21時	附属病院10階東病棟	勉強会	レサシアン、ナーシングアン、バックバルブマスク	5	0	5
7月17日 12時～19時	外科学第二教室	Laparo and Endoscope training	腹腔鏡シミュレーター、内視鏡シミュレーター、MATTTレーナー	8	0	8
7月19日 13時～21時	附属病院10階東病棟	勉強会	レサシアン、ナーシングアン、バックバルブマスク	5	0	5
7月20日 17時30分～21時	内科学第一教室	研修医の実習	内視鏡シミュレーター、上部内視鏡、マーゲンシミュレーター	10	0	10
7月21日 10時～21時	附属病院10階東病棟	勉強会	レサシアン、ナーシングアン、バックバルブマスク	5	0	5
7月21日 17時～19時	医学部学生	わりんぎ(和医大臨床技能)クラブ	心音聴診シミュレーター“イチロー”	25	0	25
7月23日 17時～21時	附属病院10階東病棟	勉強会	レサシアン、ナーシングアン、バックバルブマスク	15	0	15
7月24日 12時～25日 19時	アメリカ心臓協会準拠 和歌山トレーニングサイト	医療従事者向け心肺蘇生法講習会	レサシアン9体、ベビーアン7体、チャョーキングチャャーリー2体、バックバルブマスク成人用・新生児用3個、AEDトレーナー16台	15	10	25
7月26日 9時～30日 21時	附属病院10階東病棟	勉強会	レサシアン(全身タイプ)、バックバルブマスク、気管挿管セット	10	0	10
7月26日 16時～19時	内科学第一教室	研修	内視鏡シミュレーター	3	0	3
7月28日 14時～16時	教育研究開発センター	和歌山JSPの会(模擬患者養成の会)	肺音聴診シミュレーター“Mr.Lung”	5	6	11
7月28日 16時～18時	看護部管理室	看護部研修	救急ケアシミュレーター、輸液ポンプ、シリンジポンプ、生体情報モニタ	45	3	48
7月29日 9時～30日 15時	保健看護学部	心肺蘇生法、AED操作研修会	AEDトレーナー5台	15	170	185
7月30日 9時～8月3日 17時	附属病院CCU	ACLS学習	ハートシム、バックバルブマスク	6	0	6
			月間総件数・総人数	27件	261人	498人
使用期間	使用団体名	使用の目的	使用物品	使用者数		
				使用者の内訳 学内	学外	
				計	計	
8月6日 17時～20時	附属病院5階西病棟	勉強会	ハートシム、気管挿管セット、メトロノーム	3	0	3
8月7日 9時～19時	医療安全推進部	中心静脈穿刺指導者養成セミナー	OVC穿刺シミュレーター	15	3	18
8月11日 13時～19時	附属病院5階西病棟	勉強会	ECS、気管挿管セット、メトロノーム	3	0	3
8月11日 15時～16時	卒後臨床研修センター	手技練習	内視鏡シミュレーター	1	0	1
8月11日 16時～9月11日 16時	卒後臨床研修センター	皮膚縫合の練習	縫合用模擬皮膚、持針器、はさみ	1	0	1
8月12日 15時30分～17時	卒後臨床研修センター	手技練習	内視鏡シミュレーター	2	0	2
8月16日 17時～19時	附属病院5階西病棟	勉強会	ECS、気管挿管セット、メトロノーム	10	0	10
8月20日 9時～22日 20時	救急集中治療部	BLS研修	ハートシム、レサシアン、気道管理トレーナー	6	30	36
8月21日 15時～17時	教育研究開発センター	医学部オープンキャンパス	ECS、超音波シミュレーター、チャョーキングチャャーリー	5	60	65
8月22日 9時～20時	救急集中治療部	BLS研修	ハートシム、レサシアン6体、AEDトレーナー6台	6	36	42
8月23日 16時～26日 12時	卒後臨床研修センター	トレーニング	眼底鏡、耳鏡	1	0	1
			月間総件数・総人数	11件	53人	129人
						182人

使用期間	使用団体名	使用の目的	使用物品	使用者数	
				使用の内訳 学内	使用の内訳 学外
9月3日 16時～6日 20時	卒後臨床研修センター	トレーニング	内視鏡シミュレーター	1	0
9月5日 13時～16時30分	周産期母子医療センター	新生児蘇生法研修会	新生児挿管人形	10	40
9月8日 14時～16時	教育研究開発センター	和歌山SPの会(模擬患者養成の会)		6	8
9月10日 12時～30日 17時	卒後臨床研修センター	縫合の練習	縫合用模擬皮膚、持針器、はさみ	1	0
9月10日 16時～14日 10時	総務課	和歌山県災害医療従事者研修	レサシアン1体、ストップブウォッチ	50	0
9月10日 12時～12日 19時	アメリカ心臓協会準拠 和歌山トレーニングサイト	医療従事者対象二次心肺蘇生法講習会	ハートシム、レサシアン(全身)、レサシアン5体、AEDトレーナー5台、バックハルブマスク3個	15	15
9月13日 13時～16時	内科学第二教室	トレーニング	大腸内視鏡シミュレーター	7	0
9月16日 17時～19時30分	附属病院6階東病棟	急変時技術練習	ハートシム	15	0
9月17日 16時～30日 9時	麻酔科学教室	中心静脈穿刺実習	CVC穿刺シミュレーター	15	0
9月17日 16時30分～20日 17時	卒後臨床研修センター	トレーニング	内視鏡シミュレーター、腹腔鏡シミュレーター	1	0
9月22日 17時～19時30分	看護部管理室	研修	ハートシム、生体情報モニタ、ナーシングアン、肺音聴診シミュレーター、"Mr. Lung"	15	0
9月24日 15時30分～17時	卒後臨床研修センター	外科手技練習	内視鏡シミュレーター、腹腔鏡シミュレーター	2	0
9月25日 9時～27日 17時	救急集中治療部	BLS研修	ハートシム	10	0
9月27日 15時30分～19時	外科学第二教室	教育	腹腔鏡シミュレーター、腹腔鏡、MATTトレーナー	2	0
9月29日 15時～16時	外科学第二教室	教育	腹腔鏡シミュレーター、腹腔鏡、MATTトレーナー	2	0
9月29日 12時～10月29日 17時	卒後臨床研修センター	縫合の練習	縫合用模擬皮膚、持針器、はさみ	1	0
10月2日 17時～3日 17時	外科学第二教室	練習	腹腔鏡シミュレーター、内視鏡シミュレーター	1	0
10月4日 12時～11月4日 17時	卒後臨床研修センター	手技の練習	縫合用模擬皮膚、持針器、はさみ	1	0
10月6日 14時～16時	卒後臨床研修センター	外科手技練習	縫合用模擬皮膚、持針器、はさみ	2	0
10月8日 13時30分～9日 18時30分	助産学専攻科	両親教室	衝立	10	0
10月8日 13時30分～16時	卒後臨床研修センター	手技の練習	内視鏡シミュレーター、内視鏡、マーゲンシミュレーター	3	0
10月12日 9時～11月12日 16時	卒後臨床研修センター	縫合練習	縫合用模擬皮膚、持針器、はさみ	1	0
10月12日 14時30分～17時	卒後臨床研修センター	自主練習	内視鏡シミュレーター、内視鏡、マーゲンシミュレーター	2	0
10月12日 17時30分～20時	内科学第一教室	研修医向けの内視鏡研修	内視鏡シミュレーター、内視鏡、マーゲンシミュレーター	8	0
10月14日 17時～19時	学生BLSサークル	BLS講習会	レサシアン6体、AEDトレーナー6台	10	0
10月14日 18時～20時	卒後臨床研修センター	診察練習	眼底鏡、耳鏡、打鍵器、音叉	2	0
10月15日 15時～18時	教育研究開発センター	シミュレーター使用方法説明会	腹腔鏡シミュレーター	10	3
10月15日 17時～19時	学生BLSサークル	BLS講習会	レサシアン6体、AEDトレーナー6台	10	0
10月16日 9時～17日 17時	外科学第二教室	腹腔鏡手術のトレーニング	腹腔鏡シミュレーター	1	0
10月18日 10時～19日 16時	学生課	第62回篤志解剖体慰霊祭	CDプレーヤー	400	0
10月18日 11時～19日 16時	卒後臨床研修センター	練習	眼底鏡、耳鏡	1	0
				153人	63人
月間総件数・総人数				16件	216人



使用期間	使用団体名	使用の目的	使用物品	使用者数	
				学内	学外
計	計	計	計	計	計
10月19日 14時～18時	内科学第二教室	指導	内視鏡シミュレーター、内視鏡、マーゲンシミュレーター	6	0
10月20日 11時～11時30分	卒後臨床研修センター	内視鏡トレーニング	内視鏡シミュレーター	1	0
10月22日 11時～17時	総務課	災害訓練	レサシアン(全身タイプ)	10	0
10月22日 12時～12時	救急集中治療部	和歌山ACLSコース	ハートシム	10	40
10月22日 19時～20時	卒後臨床研修センター	診察練習	眼底鏡、耳鏡、打鍵器、音叉	2	0
10月24日 9時～17時	救急集中治療部	ジャズマラソン	ポケットマスク	20	10
10月24日 16時～17時	卒後臨床研修センター	診察練習	眼底鏡、耳鏡、打鍵器、音叉	2	0
10月26日 10時30分～12時	卒後臨床研修センター	トレーニング	内視鏡シミュレーター	1	0
10月26日 18時～22時	外科学第二教室	手技練習	腹腔鏡シミュレーター	1	0
10月28日 18時～22時	外科学第二教室	手技練習	腹腔鏡シミュレーター	1	0
10月28日 18時～22時	外科学第二教室	内視鏡外科の研修	内視鏡シミュレーター	20	0
10月28日 18時～20時	卒後臨床研修センター	診察練習	眼底鏡、耳鏡、打鍵器、音叉	2	0
10月29日 15時～30日 20時	救急集中治療部	心肺蘇生法講習	レサシアン9体、AEDトレーナー17台、エアウェイトレーナー2台、ハートシム、気道管理トレーナー	10	30
10月31日 12時～18時30分	周産期母子医療センター	新生児蘇生法講習会	新生児蘇生人形3体、新生児挿管人形3体、吸引器4台	24	17
			月間総件数・総人数	572人	100人
				672人	672人
使用期間	使用団体名	使用の目的	使用物品	使用者数	
計	計	計	計	計	計
11月3日 13時～15時	卒後臨床研修センター	診察練習	眼底鏡、耳鏡、打鍵器、音叉	2	0
11月4日 17時30分～19時30分	卒後臨床研修センター	勉強	眼底鏡、耳鏡、打鍵器、音叉	2	0
11月5日 17時～7日 17時	外科学第二教室	手技研修	腹腔鏡シミュレーター、内視鏡シミュレーター	1	0
11月7日 12時～15時	卒後臨床研修センター	診察練習	眼底鏡、耳鏡、打鍵器、音叉	2	0
11月8日 12時～30日 17時	卒後臨床研修センター	手技研修	縫合用模擬皮膚、持針器、はさみ	1	0
11月9日 14時～15時30分	総務課	田辺高校 施設見学会	レサシアン1体、AEDトレーナー1台、ECS、超音波シミュレーター	5	40
11月9日 12時～30日 17時	卒後臨床研修センター	外科的手技練習	縫合用模擬皮膚、持針器、はさみ	1	0
11月11日 9時～17時	看護部管理室	研修	採血シミュレーター“シンジョー”、ナージングアン、シリンジポンプ、輸液ポンプ	2	2
11月11日 9時～15日 9時	卒後臨床研修センター	勉強会	レサシアン1体、AEDトレーナー1台	2	10
11月11日 19時30分～21時30分	卒後臨床研修センター	診察練習	眼底鏡、耳鏡、打鍵器、音叉	2	0
11月12日 9時～16日 17時	和歌山ACLS研究会	ACLS研修	ハートシム	10	20
11月12日 16時～15日 17時	和歌山看護協会	看護研究会打ち合わせ	口腔ケアモデル1台、携帯用小型吸引器1台	1	2
11月14日 13時～15時	卒後臨床研修センター	診察練習	眼底鏡、耳鏡、打鍵器、音叉	2	2
11月15日 18時～19時	卒後臨床研修センター	診察練習	眼底鏡、耳鏡、打鍵器、音叉	2	2
11月17日 16時～17時	内科学第二教室	学生教育	内視鏡シミュレーター	4	4
11月18日 19時30分～21時30分	卒後臨床研修センター	診察練習	眼底鏡、耳鏡、打鍵器、音叉	2	2
11月19日 12時～12月20日 17時	卒後臨床研修センター	縫合練習	縫合用模擬皮膚、持針器、はさみ	1	1
11月21日 9時～19時	和歌山症例検討会	和歌山メディカルラリー	ハートシム、AEDトレーナー3台、レサシアン3体、レサシアン(全身)1体、ベビーアン2体	20	30
				50	50

使用期間	使用団体名	使用の目的	使用物品	使用者数		
				学内	学外	計
11月24日 17時～19時30分	看護部管理室	研修	ハードシム、生体情報モニタ	16	0	16
11月24日 19時30分～21時30分	卒後臨床研修センター	診察練習	眼底鏡、耳鏡、打鍵器、音叉	2	0	2
11月25日 13時30分～15時	国際交流センター	香港中文大学 施設見学会	救急ケアシミュレーター、内視鏡シミュレーター、採血シミュレーター“シミュレーション”	5	6	11
11月28日 13時～19時	卒後臨床研修センター	診察練習	眼底鏡、耳鏡、打鍵器、音叉	2	0	2
11月30日 14時～12月31日 12時	卒後臨床研修センター	縫合練習	縫合用模擬皮膚、持針器、はさみ	1	0	1
11月30日 17時30分～20時	内科学第一教室	研修医勉強会	内視鏡シミュレーター	8	0	8
月間総件数・総人数 24件 110人 206人						
使用期間	使用団体名	使用の目的	使用物品	使用者数		
12月1日 12時～12日 17時	卒後臨床研修センター	手技練習	舌圧子、つまようじ、知覚筆、打鍵器、眼底鏡	2	0	2
12月2日 14時～3日 12時	看護部管理室	弾性ストッキングの試用	ナーシングガン	10	0	10
12月3日 16時～6日 9時	救急集中治療部	心肺蘇生法講習会	ハードシム1体、点滴棒	25	0	25
12月6日 9時～24時	卒後臨床研修センター	練習	縫合用模擬皮膚、持針器、はさみ	2	0	2
12月12日 9時～18時	脳神経外科学教室	第5回和歌山ISLS	なし	10	50	60
12月14日 17時30分～20時30分	内科学第一教室	研修医の胃カメラ研修	内視鏡、マーゲンシミュレーター	8	0	8
12月15日 13時～16時	教育研究開発センター	和歌山SPの会(模擬患者養成の会)	なし	5	8	13
12月15日 20時～22時	外科学第一教室	手術手技トレーニング	内視鏡、マーゲンシミュレーター、内視鏡シミュレーター	1	1	2
12月19日 9時～24日 9時	附属病院CCU	ACLS:技術練習	ハードシム1体、バックバルブマスク1個	4	4	8
12月20日 14時～17時	卒後臨床研修センター	縫合練習	縫合用模擬皮膚、持針器、はさみ	2	2	4
12月21日 9時～28日 17時	和歌山県看護協会	看護研究会打ち合わせ	口腔ケアモデル“セイケツくん”、携帯用小型吸引器	1	3	4
12月21日 17時～19時	内科学第一教室	研修医の胃カメラ研修	内視鏡、マーゲンシミュレーター	7	7	14
12月27日 13時～15時	医学部5年生	診察練習	打鍵器	3	3	6
12月28日 15時～12月29日 17時	附属病院CCU	ACLS教育	ハードシム1体、バックバルブマスク1個	5	5	10
月間総件数・総人数 14件 85人 146人						

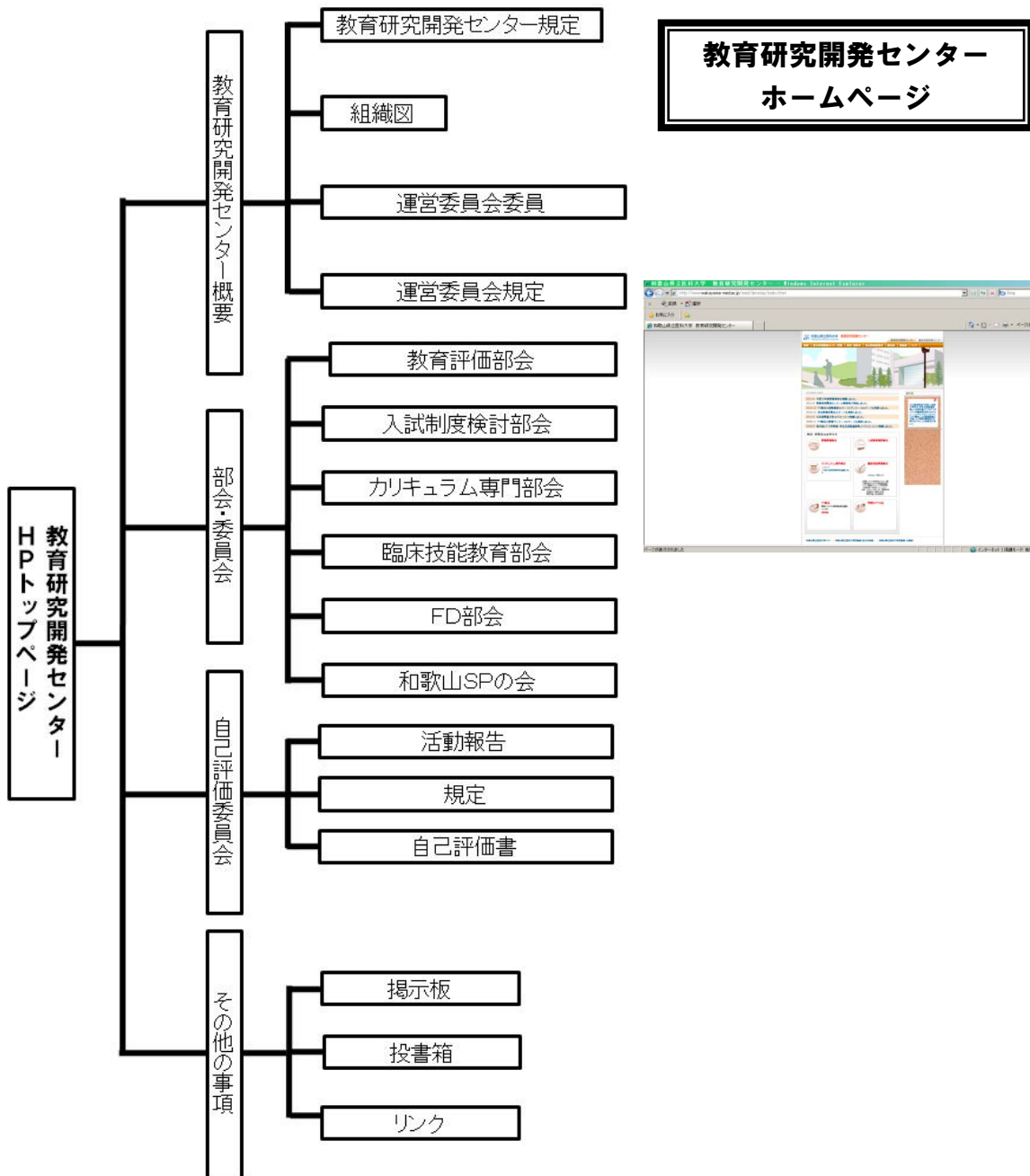
使用期間	使用団体名	使用の目的	使用物品	使用者数	
				使用の内訳 学内	使用の内訳 学外
1月8日 9時～18時	附属病院NICU	技術研修	ナーシングアーム1体、男性導尿シミュレーター1台、褥創シミュレーター	2	0
1月11日 9時～12時	看護部管理室	新規採用看護師の技術研修打合せ	ナーシングアーム1体、手洗台	45	0
1月11日 14時～15時	卒後臨床研修センター	手技練習	内視鏡シミュレーター	2	
1月12日 9時～18時 17時	和歌山県看護協会	看護研究学会打ち合わせ	口腔ケアモデル“セイケツくん”、携帯用小型吸引器	1	3
1月13日 9時～17時	看護部管理室	潜在看護師さんの復帰支援プログラム	ナーシングアーム1体、採血シミュレーター“シンジョー”2台、輸液ポンプ1台、シリシポンプ1台	2	5
1月13日 17時～21時	附属病院NICU	技術研修	ナーシングアーム1体、男性導尿シミュレーター1台	3	3
1月18日 14時～17時	卒後臨床研修センター	練習	内視鏡シミュレーター	4	4
1月19日 17時～31日 17時	卒後臨床研修センター	練習	縫合用模擬皮膚、持針器、はさみ	1	1
1月19日 17時～29日 17時	卒後臨床研修センター	練習	縫合用模擬皮膚、持針器、はさみ	1	1
1月20日 10時～17時	病院課	臓器提供シミュレーション	ベッド、リトルジュニア1体、人工呼吸器、輸液ポンプ、心電図モニター	50	50
1月20日 15時～27日 12時30分	附属病院CCU	実技練習	ハートシム、AEDトレーナー1台、バックバルブマスク1個	5	5
1月21日 17時～23日 17時	循環器内科	ACLS講習会	なし	10	20
1月22日 12時～17時	総合周産期母子医療センター	新生児蘇生法講習会	新生児蘇生人形3体、新生児挿管人形3体、吸引器4台	10	35
1月25日 17時30分～19時30分	内科学第一教室	研修医向けの内視鏡研修	内視鏡シミュレーター、内視鏡、マーゲンシミュレーター	7	7
1月26日 13時～27日 9時	救急集中治療部	講義でのAED実習	レサシアン2体、AEDトレーナー2台、	18	18
1月28日 16時～20時	医療安全推進部	CVC穿刺講習会	CVC穿刺シミュレーター	20	0
1月28日 17時～31日 17時	附属病院HCU	研修	レサシアン1体	7	0
1月31日 12時～2月28日 17時	卒後臨床研修センター	縫合の練習	縫合用模擬皮膚、持針器、はさみ	1	0
				189人	63人
				月間総件数・総人数 18件 250人	
使用期間	使用団体名	使用の目的	使用物品	使用者数	
2月2日 10時30分～12時	救急集中治療部	自主練習	超音波シミュレーター	1	0
2月2日 12時～4日17時	附属病院HCU	ACLS研修	ハートシム、バックバルブマスク	5	5
2月2日 15時～3月2日 17時	卒後臨床研修センター	縫合の練習	縫合用模擬皮膚、持針器、はさみ	1	0
2月3日 9時～18日 17時30分	看護部管理室	注射トレーニング	採血シミュレーター“シンジョー”2台、手背静脈穿刺シミュレーター	56	56
2月3日 9時～23時	卒後臨床研修センター	講義	レサシアン	50	1
2月3日 12時～3月3日 17時	卒後臨床研修センター	縫合の練習	縫合用模擬皮膚、持針器、はさみ	1	0
2月4日 9時～5日 14時	卒後臨床研修センター	講義	レサシアン	50	1
2月8日 9時～18時	和歌山県看護協会	研修	ハートシム、レサシアン6体、AEDトレーナー6台	2	30
2月9日 11時～17時	附属病院CCU	技術研修	ハートシム、バックバルブマスク	8	7
2月9日 12時～3月9日 17時	卒後臨床研修センター	縫合の練習	縫合用模擬皮膚、持針器、はさみ	1	8
2月10日 17時～13日 13時	日本医学シミュレーション学会	学術集会と技術講習会	救急ケアシミュレーター、エアウェイトレーニング2台、気道管理トレーナー、CVC穿刺シミュレーター、バックバルブマスク3個	25	50
2月14日 17時～20時	附属病院8階東病棟	急変時技術練習	レサシアン(全身)、バックバルブマスク	5	5

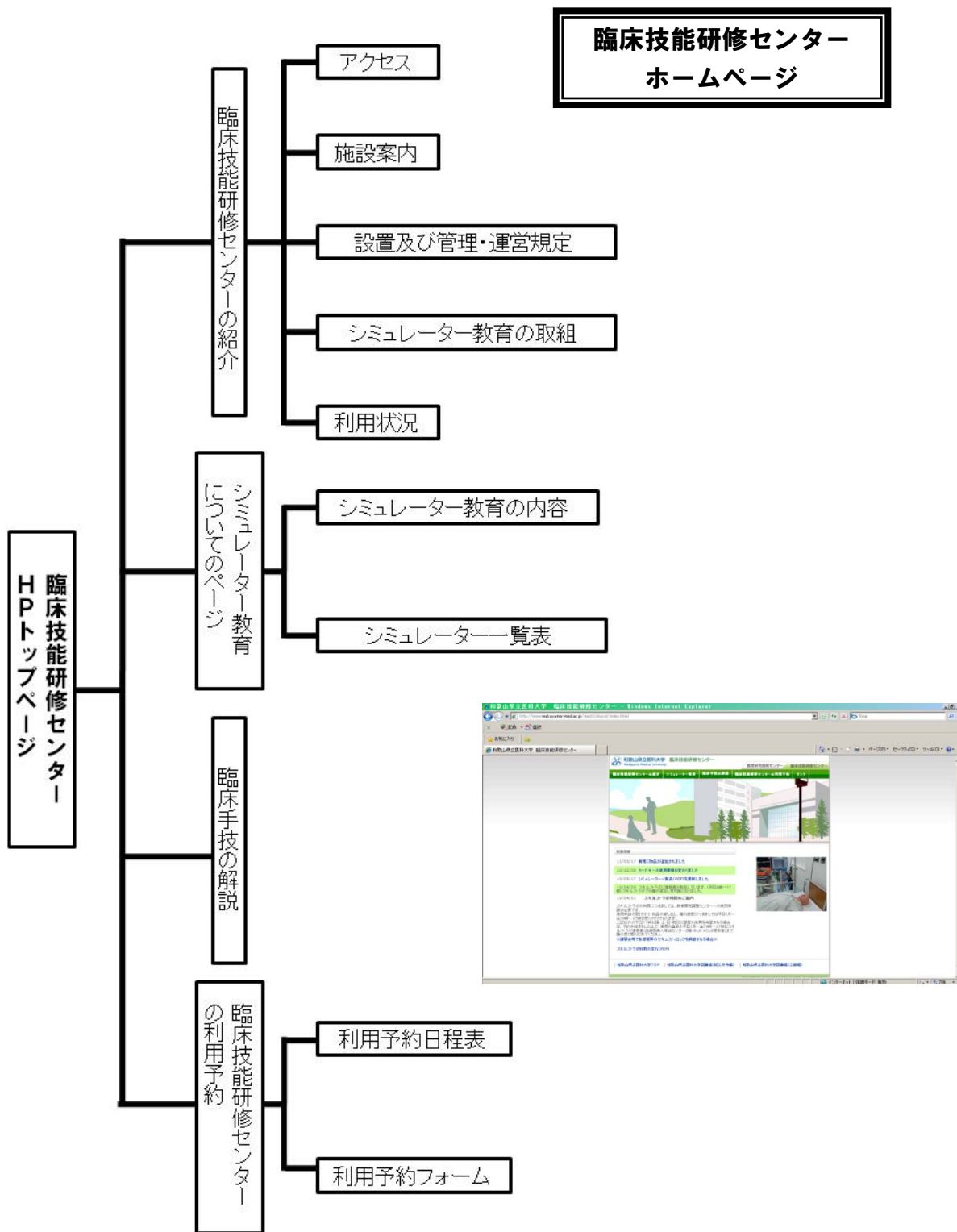
使用期間	使用団体名	使用の目的	使用物品	使用者数		
				使用者の内訳 学内	学外	
2月18日 15時～19日 20時	救急集中治療部	心肺蘇生講習	レサシアン9体、AEDトレーナー17台、ハートシム、エアウェイトトレーニング2台、気道管理トレーナー1台	10	30	
2月18日 15時～28日 16時	和歌山県看護協会	研究学会打ち合わせ	口腔ケアモデル2台	1	3	
2月25日 9時～28日 17時	和歌山県看護協会	和歌山県看護研究会での実践セミナー	口腔ケアモデル2台、携帯用小型吸引器2台	1	10	
2月23日 9時～3月9日 17時	教育研究開発センター	医学部4年生講義	心音聴診シミュレーター、肺音聴診シミュレーター、採血シミュレーター“シンジョー”、眼底診察モデル、直腸診シミュレーター	100	0	
月間総件数・総人数				317人	140人	453人
使用期間	使用団体名	使用の目的	使用物品	使用者数		
				使用者の内訳 学内	学外	
3月1日 16時40分～18時30分	学生BLSサークル	BLS講習会	レサシアン4体、AEDトレーナー4台、マット8枚	10	0	
3月2日 16時30分～19時30分	看護部管理室	看護職員研修	救急ケアシミュレーター、レサシアン1体、生体情報モニタ、人工呼吸器	25		
3月3日 9時～14日 18時	附属病院8階西病棟	勉強会	気道管理トレーナー	25	0	
3月3日 12時～18時	総務課	AED実技講習会	レサシアン4体、AEDトレーナー4台、マット8枚	30	0	
3月4日 9時～6日 17時	学生BLSサークル	大学祭での企画	レサシアン7体、AEDトレーナー7台、イチャロー、チョーキングチャリー2体、グリッターバッグ4台、眼の診察シミュレーター、耳の診察シミュレーター、神経血管腕モデル	25	50	
3月4日 9時～6日 17時	学生	大学祭での企画	高齢者体験スーツ	40	200	
3月7日 17時30分～21時	附属病院7階西病棟	ACLの予モンスレーション	レサシアン(全タイプ)、バックバルブマスク	10		
3月8日 12時～15日 12時	卒後臨床研修センター	縫合の練習	縫合用模擬皮膚、持針器、はさみ	1	1	
3月10日 9時～17時	看護部管理室	潜在看護師復職支援プログラム	シンジョー4台、ナーシングアーム1体	4	10	
3月10日 17時30分～18時30分	附属病院9階東病棟	BLS予モ練習	レサシアン1体、バックバルブマスク1個、ポケットマスク1	3	3	
3月11日 15時～31日 17時	卒後臨床研修センター	縫合の練習	縫合用模擬皮膚、持針器、はさみ	1	1	
3月16日 17時～20時	附属病院9階東病棟	研修	レサシアン1体、バックバルブマスク1個、ポケットマスク1	6	6	
3月18日 10時～20日 17時	卒後臨床研修センター	内視鏡練習	内視鏡、マーゲンシミュレーター	2	2	
3月22日 9時～25日 9時	外来ナース	研修	シンジョー1台	5	5	
3月23日 12時～13時	卒後臨床研修センター	大腸内視鏡カメラ手技練習	大腸内視鏡シミュレーター、内視鏡	1	1	
3月24日 17時～20時	附属病院9階東病棟	研修	レサシアン1体、バックバルブマスク1個、ポケットマスク1	20	20	
3月28日 11時～12時	卒後臨床研修センター	縫合練習	縫合用模擬皮膚、持針器、はさみ	2	2	
3月28日 11時～4月28日 17時	卒後臨床研修センター	縫合練習	縫合用模擬皮膚、持針器、はさみ	1	1	
3月29日 15時30分～17時	卒後臨床研修センター	研修	内視鏡、マーゲンシミュレーター	1	1	
月間総件数・総人数				212人	260人	472人
年間累計申請件数				225件	年間累計利用者	4095人

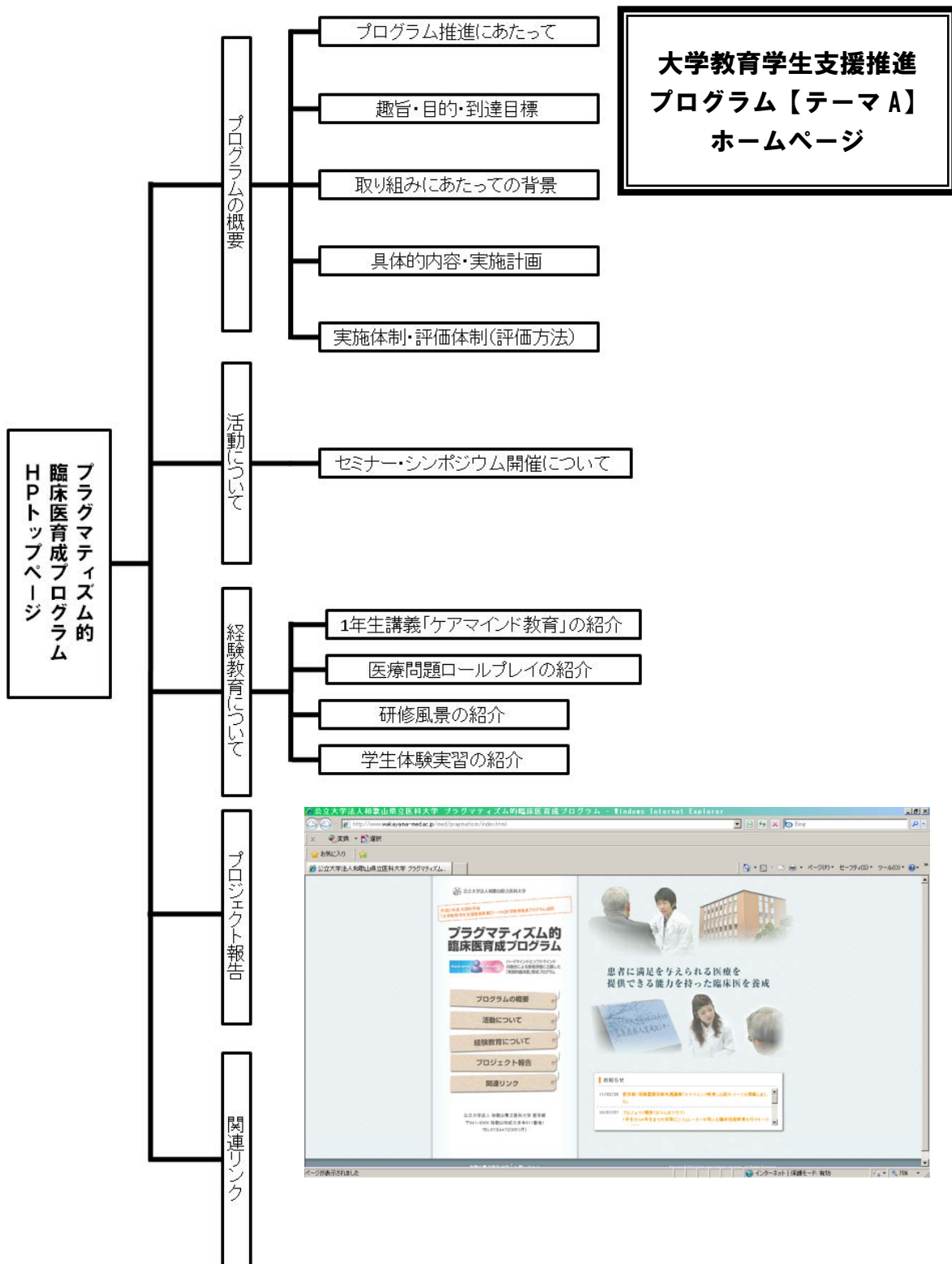
## ホームページについて

教育研究開発センターでは下記のホームページの運営、管理を行っています。

- 教育研究開発センターホームページ
- 臨床技能研修センターホームページ
- 大学教育学生支援推進事業【テーマ A】 取組紹介ホームページ







実践的「地域医療マインド」  
育成プログラム  
ホームページ

学生支援GP  
HPトップページ

学生支援GP概要

- 実践的「地域医療マインド」  
育成プログラムの概要
- 実践的「地域医療マインド」  
育成プログラムの内容
- 組織連携による「地域医療マインド」  
育成の効果
- 地域医療施設学生実習

学生支援GP活動報告

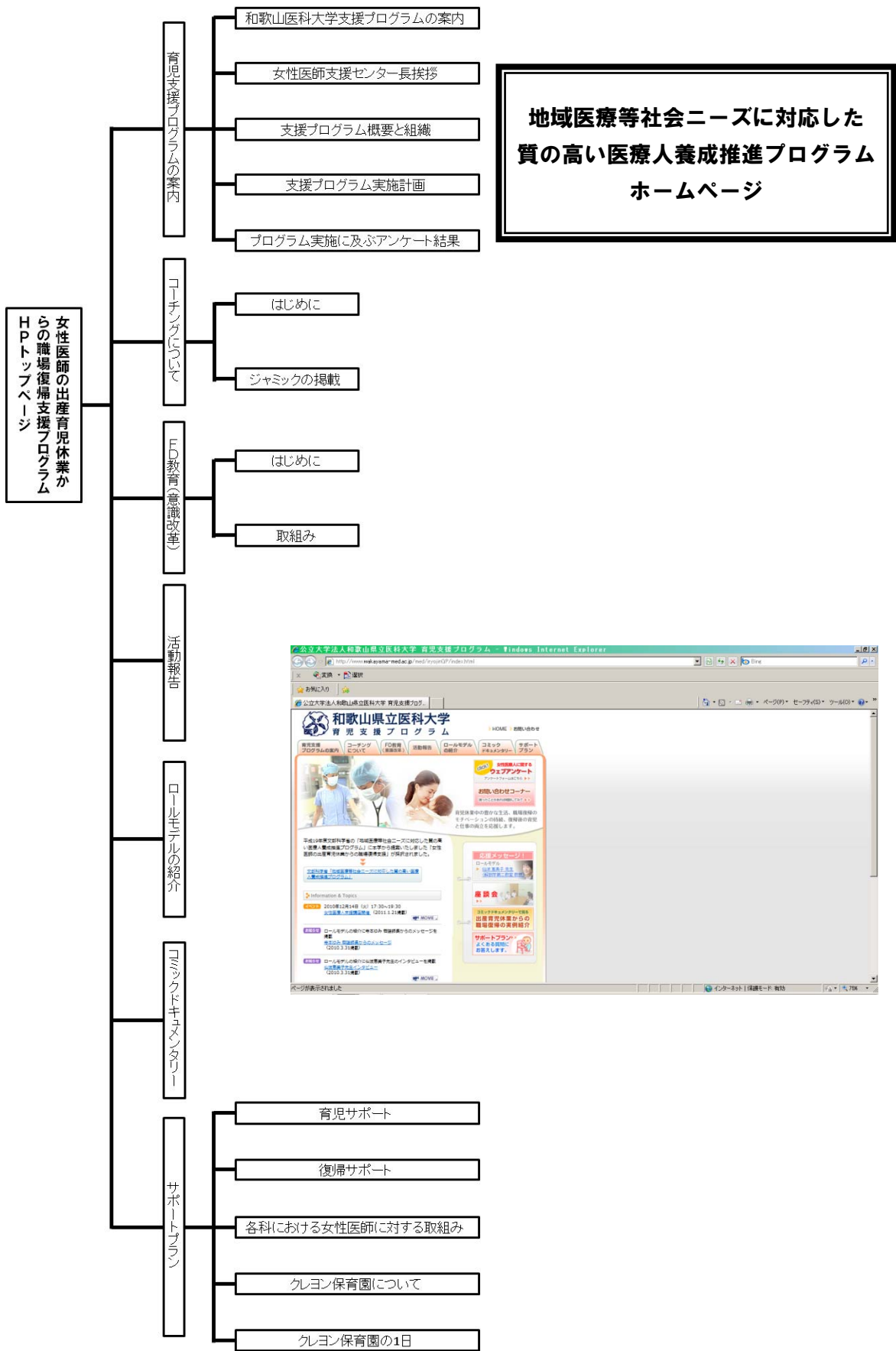
地域医療フォーラム

ボランティア紹介

学生生活







## 札幌医科大学との交流会

札幌医科大学と和歌山県立医科大学は交流地域医療フォーラムを実施しました。

### 平成 22 年度 札幌医科大学・和歌山県立医科大学 交流地域医療フォーラム

#### 次 第

日時：平成 22 年 8 月 21 日（土）17 時 30 分から

場所：札幌医科大学 保健医療学部棟 4 階 405 講義室

進行：教授 相馬 仁（札幌医科大学医療人育成センター教育開発研究部門長）

#### 1. 開会

挨拶 医学部長 黒木 由夫

#### 2. 学生による発表

（1）和歌山県立医科大学

- ① 医学部 2 年生
- ② 医学部 4 年生
- ③ 保健看護学部
- ④ 研修医

（2）札幌医科大学

- ① 医学部 1 年生
- ② 医学部 3 年生
- ③ 医学部 4 年生
- ④ 研修医

#### 3. 意見交換

#### 4. 閉会

挨拶 和歌山県立医科大学 教育研究開発センター長 羽野 卓三

参加者一覧

札幌医科大学 (20名)			
教員	医学部長	黒木 由夫	
	医療人育成センター 教育開発研究部門長	相馬 仁	
	医療人育成センター 教育開発研究部門	佐藤 利夫	
	医療人育成センター 教育開発研究部門	苗代 康可	
	医療人育成センター 入学者選抜企画研究部門	三瀬 敬治	
研修医	附属病院臨床研修センター	溜 雅人	
学生	医学部	4年生	2名
	保健医療学部 看護学科	4年生	1名
	保健医療学部 理学療法学科	4年生	1名
	医学部	3年生	2名
	保健医療学部 看護学科	3年生	1名
	保健医療学部 作業療法学科	3年生	1名
	医学部	1年生	3名
事務局		学務課	3名
和歌山県立医科大学 (20名)			
教員	教育研究開発センター長	羽野 卓三	
	卒後臨床研修センター長	上野 雅巳	
	保健看護学部	服部 園美	
研修医	3年目	保脇 雄介	
	2年目	溝口 晋	
	1年目	橋本 忠幸	
	医学部	4年生	2名
	保健看護学部	4年生	7名
	医学部	2年生	2名
事務局		企画課	2名
		保健看護学部事務室	1名

## 実践的「地域医療マインド」育成プログラム報告会 ～社会的ニーズに対応した医療人の育成をめざして～

4年間の総括として、「今、医科大学の教育に求められるものは何か？」というテーマで報告会を開催しました。

開催日時：平成23年3月6日 10時～12時

開催場所：和歌山県立医科大学 高度医療人育成センター5階 大研修室

### 式 次 第

#### 基調講演1

和歌山県立医科大学の地域医療マインド育成プログラム

和歌山県立医科大学 教育研究開発センター  
センター長 羽野 卓三

#### 基調講演2

北海道の地域医療支援を目指した札幌医科大学の多職種連携教育

札幌医科大学 医療人育成センター  
教授 相馬 仁

#### パネルディスカッション

司会・進行：教育研究開発センター	羽野 卓三
参加者：特別養護老人ホーム 龍トピア	藤井 弘一
日本ダウン症協会和歌山支部	宮本 年起
札幌医科大学	相馬 仁
看護部	西口 知子
医学部4年生	前田 真範

#### 総 括





# 今、医科大学の教育に求められるものは何か？

平成19年度「新たな社会的ニーズに対応した学生支援プログラム」報告会  
実践的「地域医療マインド」育成プログラム  
～社会的ニーズに対応した医療人の育成をめざして～

和歌山県立医科大学では、高度先端医療から在宅医療までのさまざまな医療のステージを学生に体験させ、「地域医療」に対するネガティブなイメージを払拭し、「地域医療マインド」を持った医療人を育成することを目指して、教育を行ってまいりました。今回、30年の取組を振り返って検証するためのワークショップを行います。

本学の医学教育に関心のある方はぜひご参加ください。



**日時:平成23年 3月 6日 10:00~12:00**  
**場所:高度医療人育成センター 5F 大研修室**

**【基調講演】**

**1.和歌山県立医科大学の地域医療マインド育成プログラム**  
 教育研究開発センター 羽野卓三

**2.北海道の地域医療支援を目指した札幌医科大学の多職種連携教育**  
 札幌医科大学 医療人育成センター 相馬 仁

**【パネルディスカッション】**

<b>1. 老人福祉関連施設実習</b>	龍トピア	藤井弘一
<b>2. ケアマインド教育</b>	日本ダウン症協会	宮本年起
<b>3. 札幌医科大学との交流</b>	札幌医科大学	相馬 仁
<b>4. 看護体験実習</b>	看護部	宮本知子
<b>5. 学生の立場で</b>	医学部4年生	前田真範

平成 23 年 9 月 発行

和歌山県立医科大学 教育研究開発センター

〒641-8509

和歌山市紀三井寺 811 番地 1

電 話 : 073-441-0813(0815)

F A X : 073-441-0814

ホームページ <http://www.wakayama-med.ac.jp/med/develop/index.html>

e - m a i l [cerd@wakayama-med.ac.jp](mailto:cerd@wakayama-med.ac.jp)



公立大学法人  
和歌山県立医科大学  
**教育研究開発センター**